

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	キリスト教と音楽／教会音楽入門A						
担当教員	緋田 芳江					科目ナンバ-	Z12040
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	歌唱演習と鑑賞を通してキリスト教の教会音楽を学ぶ						
授業の概要	ラテン語ミサ曲の歌唱演習と鑑賞により教会音楽を紹介する。歌詞の意味や発音を指導し、楽譜を読む力を養い、歌唱力の向上を目指すと共に、より高次の芸術作品の鑑賞を取り入れ、キリスト教と教会音楽への理解を養う。						
到達目標	教会音楽について概要を理解し説明することが出来る【知識・理解】 楽譜を読んで歌唱することが出来る【汎用的技能】 他者と協力し演奏を実現することが出来る【態度・志向性】 芸術を理解し楽しむことが出来る【態度・志向性】						
授業計画	第1回 授業の説明 歌唱の楽しみ「ドナ・ノービス・パーチェム」 第2回 ハーモニーの学び 「マニフィカト」 第3回 ミサ曲を学ぶ 概論と導入 「キリエ」1（主よ、憐れみたまえ） 第4回 ミサ曲を学ぶ 「キリエ」2（キリストよ、憐れみたまえ） 第5回 ミサ曲を学ぶ 「グロリア」1（いと高きところ、神に栄光あれ） 第6回 ミサ曲を学ぶ 「グロリア」2（主のひとり子、イエス・キリストよ） 第7回 ミサ曲を学ぶ 「グロリア」3（汝のみ、聖なり） 第8回 ミサ曲を学ぶ 「サンクトゥス」（聖なるかな） 第9回 ミサ曲を学ぶ 「オー・サルタリス・オスティア」（おお、救いの生贄） 第10回 ミサ曲を学ぶ 「アニュス・デイ」（神の子羊） 第11回 ミサ曲全曲の復習 第12回 チャペルで歌う・オルガンを聴く 第13回 英語聖歌を歌う 第14回 ドイツ語コラルを歌う 第15回 まとめと歌唱テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各回授業で配布する資料と楽譜による予習を行う（学習時間：2時間） 授業後学習：授業後にmanabaに掲載する参考資料、音源等を活用して復習する（学習時間：2時間）						
授業方法	歌詞（ラテン語）の発音練習をし、単語や文章の意味を学ぶ。聖書箇所等を参照する。 階名または母音で譜読みをし、歌詞を付けて歌う。 グループまたはペアで2声ハーモニーを練習する。鑑賞の感想などをディスカッションする。						
評価基準と評価方法	授業態度50% レポート25% 発表・歌唱テスト25% 授業態度：歌唱への取り組み姿勢、アンサンブルの積極性と協調性 他者の演奏や鑑賞を聴く態度 レポート：授業で学んだ内容の理解を確認し考察を評価する。レポートを添削しフィードバックする 発表・歌唱テスト：歌唱の習熟度と歌唱・発表の態度を評価する。 出席回数が開講日数の2/3に満たない場合は原則単位認定を行わない						
履修上の注意	歌うこと、聴くこと、音楽全般に対する積極的な姿勢が望まれる						
教科書	プリントを配布する						
参考書	「キリスト教と音楽 ヨーロッパ音楽の源流をたずねて」音楽之友社 ISBN-13 978-4276110588 「ミサ曲・ラテン語・教会音楽ハンドブック」ハンナ ISBN-13 978-4883641475						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	キリスト教と美術						
担当教員	上久保 真理					科目ナンバ-	Z12050
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教と美術との関わりを読み解く。						
授業の概要	キリスト教と美術との結びつきは深い。同時に、目には見えない「神」という観念と、見ることを前提とする美術との隔たりは大きい。目に見えないものを解釈し、目に見えるかたちに翻訳するという矛盾に満ちた努力が、図像学的な体系を生み、キリスト教西欧の文化を押し進めてきたと言える。この授業では「作品」を読み解くことを通じて、キリスト教西欧における美術の意義について考察する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) キリスト教西欧の美術の展開を概観し、その背景にあるキリスト教解釈と美術との深い関わりについて理解して論じることができる。【知識・理解】 2) 美術を通してキリスト教西欧の社会・文化についての知識や教養に興味を抱くことができる。【知識・理解】 3) キリスト教と美術との結びつきを踏まえてキリスト教西欧における美術の意義について考え、さらには今日の美術の意味・価値について自分の意見を持つことができる。【態度・志向性】 						
授業計画	第1回 ヨーロッパの形成とローマ帝国の崩壊 第2回 ゲルマン人とキリスト教 第3回 カロリング朝とオットー朝の美術 第4回 聖遺物崇敬・聖像理論 第5回 修道院・巡礼・十字軍 第6回 ロマネスクの建築と造形イメージ 第7回 ゴシックの建築と視覚性 第8回 ルネサンスの息吹 第9回 科学と芸術 第10回 ローマ教皇庁とマニエリスム 第11回 宗教改革とプロテスタント 第12回 反宗教改革と異端の概念 第13回 プロテスタンティズムと美術の世俗化 第14回 映画とキリスト教 第15回 キリスト教美術の行方						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業計画の各回のテーマについて、各自が前もってインターネットで検索、図書室で調べてみるなどして予習を行うこと（学習時間2時間）。 授業後学習：授業で取り上げた箇所の時代背景や、授業で興味を持った作品・作家について、各自がさらに掘り下げて調べてみる（学習時間2時間）。 授業中に告知する展覧会などへ積極的に足を運び、生の作品に触れること。紹介した図書、映画なども見てみて欲しい。						
授業方法	講義：各回のテーマについて、スライドを見ながら講義を行う。コロナの状況が許せば、簡単なワークショップ、個人の発表、ディスカッションなども取り入れたい。						
評価基準と評価方法	・平常点30%：毎回提出のリアクションシート（授業内容についてのコメント・課題に対する解答）。到達目標(1)、(2)、(3)に関する到達度の確認。 ・宿題レポートなどの提出物や発表など20%：授業内容についての課題に対する解答・自身の意見提示。到達目標(1)、(2)、(3)に関する到達度の確認。 ・期末レポート50%：授業内容の理解度と、美術を通してその背景にあるキリスト教解釈と美術との深い関わりについて思いをいたし、さらに今日の美術の意義・価値についても積極的に考察・展望する姿勢を評価する。到達目標(1)、(2)、(3)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	受講に際しての注意事項は最初の授業時にプリントで配布する。 授業の進行状況や新しいトピックの挿入等により、毎回の授業計画に変更の可能性もある。						
教科書	適宜、資料を配布する。						
参考書	授業中に随時紹介する。						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	キリスト教の基礎						
担当教員	木鎌 耕一郎					科目ナンバ-	Z11020
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教入門						
授業の概要	本講座の目的は、必修科目「神戸松蔭とキリスト教」の履修を終えた学生が、本学の建学精神の土台であるキリスト教に関する基礎的な知識、特にキリスト教の正典である旧新約聖書およびキリスト教信仰の中核をなすイエス・キリストについての基本的知識を習得することにある。まずキリスト教の基本的特徴および歴史の概略を学ぶ。次いでイエス時代のユダヤ社会の特質や旧新約聖書を概観した上で、福音書を読みながら、十字架と復活に至るイエスの生涯とその教えを考察しつつ、その今日的意義について探りを入れていく。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教の基本的特徴や歴史の概略を理解し、説明することができる。(知識・理解) ・旧約聖書と新約聖書の概要を理解し、説明することができる。(知識・理解) ・キリスト教のメッセージに通じるものを、人々の生き方や世界における様々な出来事に見出すことができる。(汎用的技能) (態度・志向性) 						
授業計画	第1回：オリエンテーション（授業の概要と進め方、学習方法、成績評価に関する説明）[PC必携] 第2回：聖書の構造と成立史[PC必携] 第3回：創世記（天地創造、アダムとエバ）[PC必携] 第4回：創世記（アブラハム、イサク、ヤコブ）[PC必携] 第5回：創世記～出エジプト記（ヨセフ、モーセ、主の過越し、十戒）[PC必携] 第6回：レビ記、民数記、申命記[PC必携] 第7回：ヨシュア記、士師記、サムエル記[PC必携] 第8回：王国時代とバビロン捕囚、捕囚後のユダヤ思想、アポクリファ[PC必携] 第9回：イエス時代の宗教的・社会的状況（「神の国」、メシア待望、選民思想）[PC必携] 第10回：「神の国」をめぐるイエスと洗礼者ヨハネの言説[PC必携] 第11回：イエスの教え①（公生活、誕生場面に見る最初の来客、山上の説教）[PC必携] 第12回：イエスの教え②（神への愛と隣人愛、善きサマリア人のたとえ話、愛敵の思想）[PC必携] 第13回：裁判、死刑、復活（最高法院、神洗罪、ポンシオ・ピラト、十字架刑）[PC必携] 第14回：聖霊降臨と使徒的伝承（使徒、救済の意味、原罪、ドグマ）[PC必携] 第15回：キリスト教の展開（まとめと展望） 期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前準備学習：シラバスの各回授業のキーワードを図書やインターネットによって下調べをして、自分なりにノートにまとめる。（学習時間：2時間） ・授業後学習：授業で扱った内容をノートにまとめ、授業内で示した課題に取り組む（学習時間：2時間） 						
授業方法	講義。一部の授業でグループワークと発表を行うことがある。 この科目はBYOD（パソコン必携）科目なので、授業にはパソコンを持参すること。						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内での提出物・課題50%（毎回の授業で松蔭manabaの小テストを行う。またレポート課題もある） ・期末試験50% 						
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した学生は、原則として不合格とする。						
教科書	なし。随時プリントを配布する。						
参考書	日本聖書協会『聖書協会共同訳聖書』もしくは『新共同訳聖書』 竹下節子『知の教科書 キリスト教』講談社						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	キリスト教の基礎						
担当教員	木鎌 耕一郎					科目ナンバ-	Z11020
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教入門						
授業の概要	本講座の目的は、必修科目「神戸松蔭とキリスト教」の履修を終えた学生が、本学の建学精神の土台であるキリスト教に関する基礎的な知識、特にキリスト教の正典である旧新約聖書およびキリスト教信仰の中核をなすイエス・キリストについての基本的知識を習得することにある。まずキリスト教の基本的特徴および歴史の概略を学ぶ。次いでイエス時代のユダヤ社会の特質や旧新約聖書を概観した上で、福音書を読みながら、十字架と復活に至るイエスの生涯とその教えを考察しつつ、その今日的意義について探りを入れていく。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教の基本的特徴や歴史の概略を理解し、説明することができる。(知識・理解) ・旧約聖書と新約聖書の概要を理解し、説明することができる。(知識・理解) ・キリスト教のメッセージに通じるものを、人々の生き方や世界における様々な出来事に見出すことができる。(汎用的技能) (態度・志向性) 						
授業計画	第1回：オリエンテーション（授業の概要と進め方、学習方法、成績評価に関する説明）[PC必携] 第2回：聖書の構造と成立史[PC必携] 第3回：創世記（天地創造、アダムとエバ）[PC必携] 第4回：創世記（アブラハム、イサク、ヤコブ）[PC必携] 第5回：創世記～出エジプト記（ヨセフ、モーセ、主の過越し、十戒）[PC必携] 第6回：レビ記、民数記、申命記[PC必携] 第7回：ヨシュア記、士師記、サムエル記[PC必携] 第8回：王国時代とバビロン捕囚、捕囚後のユダヤ思想、アポクリファ[PC必携] 第9回：イエス時代の宗教的・社会的状況（「神の国」、メシア待望、選民思想）[PC必携] 第10回：「神の国」をめぐるイエスと洗礼者ヨハネの言説[PC必携] 第11回：イエスの教え①（公生活、誕生場面に見る最初の来客、山上の説教）[PC必携] 第12回：イエスの教え②（神への愛と隣人愛、善きサマリア人のたとえ話、愛敵の思想）[PC必携] 第13回：裁判、死刑、復活（最高法院、神洗罪、ポンシオ・ピラト、十字架刑）[PC必携] 第14回：聖霊降臨と使徒的伝承（使徒、救済の意味、原罪、ドグマ）[PC必携] 第15回：キリスト教の展開（まとめと展望） 期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前準備学習：シラバスの各回授業のキーワードを図書やインターネットによって下調べをして、自分なりにノートにまとめる。（学習時間：2時間） ・授業後学習：授業で扱った内容をノートにまとめ、授業内で示した課題に取り組む（学習時間：2時間） 						
授業方法	講義。一部の授業でグループワークと発表を行うことがある。 この科目はBYOD（パソコン必携）科目なので、授業にはパソコンを持参すること。						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内での提出物・課題50%（毎回の授業で松蔭manabaの小テストを行う。またレポート課題もある） ・期末試験50% 						
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した学生は、原則として不合格とする。						
教科書	なし。随時プリントを配布する。						
参考書	日本聖書協会『聖書協会共同訳聖書』もしくは『新共同訳聖書』 竹下節子『知の教科書 キリスト教』講談社						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	キリスト教の基礎						
担当教員	木鎌 耕一郎					科目ナンバ-	Z11020
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教入門						
授業の概要	本講座の目的は、必修科目「神戸松蔭とキリスト教」の履修を終えた学生が、本学の建学精神の土台であるキリスト教に関する基礎的な知識、特にキリスト教の正典である旧新約聖書およびキリスト教信仰の中核をなすイエス・キリストについての基本的知識を習得することにある。まずキリスト教の基本的特徴および歴史の概略を学ぶ。次いでイエス時代のユダヤ社会の特質や旧新約聖書を概観した上で、福音書を読みながら、十字架と復活に至るイエスの生涯とその教えを考察しつつ、その今日的意義について探りを入れていく。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教の基本的特徴や歴史の概略を理解し、説明することができる。(知識・理解) ・旧約聖書と新約聖書の概要を理解し、説明することができる。(知識・理解) ・キリスト教のメッセージに通じるものを、人々の生き方や世界における様々な出来事に見出すことができる。(汎用的技能) (態度・志向性) 						
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション(授業の概要と進め方、学習方法、成績評価に関する説明) [PC必携]</p> <p>第2回：聖書の構造と成立史 [PC必携]</p> <p>第3回：創世記(天地創造、アダムとエバ) [PC必携]</p> <p>第4回：創世記(アブラハム、イサク、ヤコブ) [PC必携]</p> <p>第5回：創世記～出エジプト記(ヨセフ、モーセ、主の過越し、十戒) [PC必携]</p> <p>第6回：レビ記、民数記、申命記 [PC必携]</p> <p>第7回：ヨシュア記、士師記、サムエル記 [PC必携]</p> <p>第8回：王国時代とバビロン捕囚、捕囚後のユダヤ思想、アポクリファ [PC必携]</p> <p>第9回：イエス時代の宗教的・社会的状況(「神の国」、メシア待望、選民思想) [PC必携]</p> <p>第10回：「神の国」をめぐるイエスと洗礼者ヨハネの言説 [PC必携]</p> <p>第11回：イエスの教え①(公生活、誕生場面に見る最初の来客、山上の説教) [PC必携]</p> <p>第12回：イエスの教え②(神への愛と隣人愛、善きサマリア人のたとえ話、愛敵の思想) [PC必携]</p> <p>第13回：裁判、死刑、復活(最高法院、神洗罪、ポンシオ・ピラト、十字架刑) [PC必携]</p> <p>第14回：聖霊降臨と使徒的伝承(使徒、救済の意味、原罪、ドグマ) [PC必携]</p> <p>第15回：キリスト教の展開(まとめと展望) 期末試験</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前準備学習：シラバスの各回授業のキーワードを図書やインターネットによって下調べをして、自分なりにノートにまとめる。(学習時間：2時間) ・授業後学習：授業で扱った内容をノートにまとめ、授業内で示した課題に取り組む(学習時間：2時間) 						
授業方法	講義。一部の授業でグループワークと発表を行うことがある。 この科目はBYOD(パソコン必携)科目なので、授業にはパソコンを持参すること。						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内での提出物・課題50%(毎回の授業で松蔭manabaの小テストを行う。またレポート課題もある) ・期末試験50% 						
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した学生は、原則として不合格とする。						
教科書	なし。随時プリントを配布する。						
参考書	日本聖書協会『聖書協会共同訳聖書』もしくは『新共同訳聖書』 竹下節子『知の教科書 キリスト教』講談社						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	キリスト教の基礎						
担当教員	木鎌 耕一郎					科目ナンバ-	Z11020
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教入門						
授業の概要	本講座の目的は、必修科目「神戸松蔭とキリスト教」の履修を終えた学生が、本学の建学精神の土台であるキリスト教に関する基礎的な知識、特にキリスト教の正典である旧新約聖書およびキリスト教信仰の中核をなすイエス・キリストについての基本的知識を習得することにある。まずキリスト教の基本的特徴および歴史の概略を学ぶ。次いでイエス時代のユダヤ社会の特質や旧新約聖書を概観した上で、福音書を読みながら、十字架と復活に至るイエスの生涯とその教えを考察しつつ、その今日的意義について探りを入れていく。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教の基本的特徴や歴史の概略を理解し、説明することができる。(知識・理解) ・旧約聖書と新約聖書の概要を理解し、説明することができる。(知識・理解) ・キリスト教のメッセージに通じるものを、人々の生き方や世界における様々な出来事に見出すことができる。(汎用的技能) (態度・志向性) 						
授業計画	第1回：オリエンテーション（授業の概要と進め方、学習方法、成績評価に関する説明）[PC必携] 第2回：聖書の構造と成立史[PC必携] 第3回：創世記（天地創造、アダムとエバ）[PC必携] 第4回：創世記（アブラハム、イサク、ヤコブ）[PC必携] 第5回：創世記～出エジプト記（ヨセフ、モーセ、主の過越し、十戒）[PC必携] 第6回：レビ記、民数記、申命記[PC必携] 第7回：ヨシュア記、士師記、サムエル記[PC必携] 第8回：王国時代とバビロン捕囚、捕囚後のユダヤ思想、アポクリファ[PC必携] 第9回：イエス時代の宗教的・社会的状況（「神の国」、メシア待望、選民思想）[PC必携] 第10回：「神の国」をめぐるイエスと洗礼者ヨハネの言説[PC必携] 第11回：イエスの教え①（公生活、誕生場面に見る最初の来客、山上の説教）[PC必携] 第12回：イエスの教え②（神への愛と隣人愛、善きサマリア人のたとえ話、愛敵の思想）[PC必携] 第13回：裁判、死刑、復活（最高法院、神洗罪、ポンシオ・ピラト、十字架刑）[PC必携] 第14回：聖霊降臨と使徒的伝承（使徒、救済の意味、原罪、ドグマ）[PC必携] 第15回：キリスト教の展開（まとめと展望） 期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前準備学習：シラバスの各回授業のキーワードを図書やインターネットによって下調べをして、自分なりにノートにまとめる。（学習時間：2時間） ・授業後学習：授業で扱った内容をノートにまとめ、授業内で示した課題に取り組む（学習時間：2時間） 						
授業方法	講義。一部の授業でグループワークと発表を行うことがある。 この科目はBYOD（パソコン必携）科目なので、授業にはパソコンを持参すること。						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内での提出物・課題50%（毎回の授業で松蔭manabaの小テストを行う。またレポート課題もある） ・期末試験50% 						
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した学生は、原則として不合格とする。						
教科書	なし。随時プリントを配布する。						
参考書	日本聖書協会『聖書協会共同訳聖書』もしくは『新共同訳聖書』 竹下節子『知の教科書 キリスト教』講談社						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	キリスト教の基礎						
担当教員	木鎌 耕一郎					科目ナンバ-	Z11020
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教入門						
授業の概要	本講座の目的は、必修科目「神戸松蔭とキリスト教」の履修を終えた学生が、本学の建学精神の土台であるキリスト教に関する基礎的な知識、特にキリスト教の正典である旧新約聖書およびキリスト教信仰の中核をなすイエス・キリストについての基本的知識を習得することにある。まずキリスト教の基本的特徴および歴史の概略を学ぶ。次いでイエス時代のユダヤ社会の特質や旧新約聖書を概観した上で、福音書を読みながら、十字架と復活に至るイエスの生涯とその教えを考察しつつ、その今日的意義について探りを入れていく。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教の基本的特徴や歴史の概略を理解し、説明することができる。(知識・理解) ・旧約聖書と新約聖書の概要を理解し、説明することができる。(知識・理解) ・キリスト教のメッセージに通じるものを、人々の生き方や世界における様々な出来事に見出すことができる。(汎用的技能) (態度・志向性) 						
授業計画	第1回：オリエンテーション（授業の概要と進め方、学習方法、成績評価に関する説明）[PC必携] 第2回：聖書の構造と成立史[PC必携] 第3回：創世記（天地創造、アダムとエバ）[PC必携] 第4回：創世記（アブラハム、イサク、ヤコブ）[PC必携] 第5回：創世記～出エジプト記（ヨセフ、モーセ、主の過越し、十戒）[PC必携] 第6回：レビ記、民数記、申命記[PC必携] 第7回：ヨシュア記、士師記、サムエル記[PC必携] 第8回：王国時代とバビロン捕囚、捕囚後のユダヤ思想、アポクリファ[PC必携] 第9回：イエス時代の宗教的・社会的状況（「神の国」、メシア待望、選民思想）[PC必携] 第10回：「神の国」をめぐるイエスと洗礼者ヨハネの言説[PC必携] 第11回：イエスの教え①（公生活、誕生場面に見る最初の来客、山上の説教）[PC必携] 第12回：イエスの教え②（神への愛と隣人愛、善きサマリア人のたとえ話、愛敵の思想）[PC必携] 第13回：裁判、死刑、復活（最高法院、神洗罪、ポンシオ・ピラト、十字架刑）[PC必携] 第14回：聖霊降臨と使徒的伝承（使徒、救済の意味、原罪、ドグマ）[PC必携] 第15回：キリスト教の展開（まとめと展望） 期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前準備学習：シラバスの各回授業のキーワードを図書やインターネットによって下調べをして、自分なりにノートにまとめる。（学習時間：2時間） ・授業後学習：授業で扱った内容をノートにまとめ、授業内で示した課題に取り組む（学習時間：2時間） 						
授業方法	講義。一部の授業でグループワークと発表を行うことがある。 この科目はBYOD（パソコン必携）科目なので、授業にはパソコンを持参すること。						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内での提出物・課題50%（毎回の授業で松蔭manabaの小テストを行う。またレポート課題もある） ・期末試験50% 						
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した学生は、原則として不合格とする。						
教科書	なし。随時プリントを配布する。						
参考書	日本聖書協会『聖書協会共同訳聖書』もしくは『新共同訳聖書』 竹下節子『知の教科書 キリスト教』講談社						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	くらしと憲法						
担当教員	吉川 正史					科目ナンバー	Z11230
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	目に見えないところで私たちのくらしにかかわっている日本国憲法について深く理解する。						
授業の概要	法体系における憲法の位置づけを確認し、法の意義・分類・解釈について概観したうえで、日本国憲法の内容について詳細に講義する。そこでは、人権保障および民主政治のしくみについて、それぞれ具体的事例も取り上げながら、わかりやすく解説することとする。						
到達目標	1. 日本国憲法における人権保障について理解し説明できる。【知識・理解】 2. 日本国憲法における民主政治のしくみについて理解し説明できる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 イントロダクション～憲法とは何か 第2回 法の意義・分類・解釈 第3回 人権保障(1)子どもの人権・外国人の権利 第4回 人権保障(2)プライバシー権・自己決定権 第5回 人権保障(3)法の下での平等 第6回 人権保障(4)表現の自由 第7回 人権保障(5)信教の自由・営業の自由 第8回 人権保障(6)生存権・教育権 第9回 人権保障(7)死刑制度 第10回 民主政治のしくみ(1)天皇・平和主義 第11回 民主政治のしくみ(2)国会 第12回 民主政治のしくみ(3)内閣 第13回 民主政治のしくみ(4)裁判所・司法審査制 第14回 民主政治のしくみ(5)地方自治・憲法改正 第15回 日本国憲法総括						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：教科書または事前配布プリントの該当箇所を予習し、要点を整理しておく。(学習時間：<2時間>) 授業後学習：授業内容の要点をノートにまとめたうえで、小テスト(確認テスト)で理解度を確かめる。(学習時間：<2時間>)						
授業方法	講義： manabaを利用した小テスト(確認テスト)および期末レポートを実施する。						
評価基準と評価方法	小テスト(確認テスト)50% 期末レポート50%						
履修上の注意	事前配布プリントがあるときは、manabaにより配信する。 小テスト(確認テスト)および期末レポートは、提出期限を厳守すること。						
教科書	『いちばんやさしい憲法入門〔第6版〕』初宿正典・高橋正俊・米沢広一・棟居快行著 有斐閣 ISBN978-4-641-22150-5						
参考書							

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	くらしと憲法						
担当教員	吉川 正史					科目ナンバ-	Z11230
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜5	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	目に見えないところで私たちのくらしにかかわっている日本国憲法について深く理解する。						
授業の概要	法体系における憲法の位置づけを確認し、法の意義・分類・解釈について概観したうえで、日本国憲法の内容について詳細に講義する。そこでは、人権保障および民主政治のしくみについて、それぞれ具体的事例も取り上げながら、わかりやすく解説することとする。						
到達目標	1. 日本国憲法における人権保障について理解し説明できる。【知識・理解】 2. 日本国憲法における民主政治のしくみについて理解し説明できる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 イントロダクション～憲法とは何か 第2回 法の意義・分類・解釈 第3回 人権保障(1)子どもの人権・外国人の権利 第4回 人権保障(2)プライバシー権・自己決定権 第5回 人権保障(3)法の下での平等 第6回 人権保障(4)表現の自由 第7回 人権保障(5)信教の自由・営業の自由 第8回 人権保障(6)生存権・教育権 第9回 人権保障(7)死刑制度 第10回 民主政治のしくみ(1)天皇・平和主義 第11回 民主政治のしくみ(2)国会 第12回 民主政治のしくみ(3)内閣 第13回 民主政治のしくみ(4)裁判所・司法審査制 第14回 民主政治のしくみ(5)地方自治・憲法改正 第15回 日本国憲法総括						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：教科書または事前配布プリントの該当箇所を予習し、要点を整理しておく。(学習時間：<2時間>) 授業後学習：授業内容の要点をノートにまとめたうえで、小テスト(確認テスト)で理解度を確かめる。(学習時間：<2時間>)						
授業方法	講義： manabaを利用した小テスト(確認テスト)および期末レポートを実施する。						
評価基準と評価方法	小テスト(確認テスト)50% 期末レポート50%						
履修上の注意	事前配布プリントがあるときは、manabaにより配信する。 小テスト(確認テスト)および期末レポートは、提出期限を厳守すること。						
教科書	『いちばんやさしい憲法入門〔第6版〕』初宿正典・高橋正俊・米沢広一・棟居快行著 有斐閣 ISBN978-4-641-22150-5						
参考書							

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	くらしとリスクマネジメント						
担当教員	佐藤 祥徳・村上 隆行					科目ナンバ-	Z11240
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	「女性」「自然（防災）」をテーマにリスクマネジメントを学ぶ						
授業の概要	わたしたちの生活や企業・団体の活動の多くはリスクにさらされている。また、そのリスクの種類は多様化し、発生のメカニズムは複雑化し、その影響は大きくなってきている。主に、災害、生活の被害や病気、事故を題材として、わたしたちを取り巻く危機を多角的に分析し、態度や行動、保険などにより問題を解決できる能力を養う。						
到達目標	(1) リスクとリスクマネジメントの基本的な考え方について理解し、基本的な対処方法を説明できる。【知識・理解】 (2) わたしたちを取り巻くリスクを多角的に分析し、対処方法を提案できる。【汎用的技能】 (3) 現代のリスクマネジメントとリスクコミュニケーションのあり方について、事例に基づいて議論できる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス、女性と犯罪被害（性犯罪、ストーカー）（佐藤） 第2回 男女関係をめぐるトラブル（デートDV、リベンジポルノ、デート商法、交際相手のための名義貸し・連帯保証等）（佐藤） 第3回 夫婦関係をめぐるトラブル（婚約破棄、不貞行為、家庭内暴力、離婚と子の奪い合い）（佐藤） 第4回 女性と貧困（クレジットカード破産、非正規雇用の拡大、養育費の未払い等）（佐藤） 第5回 女性とハラスメント（セクシャルハラスメント、マタニティハラスメント、モラルハラスメント等）（佐藤） 第6回 裁判制度の概説（佐藤） 第7回 裁判を傍聴する（学外研修）（佐藤） 第8回 災害を知る1～自然災害とは、災害発生のメカニズム災害を知る（村上） 第9回 災害を知る2～過去の大規模災害、将来想定される被害等（村上） 第10回 災害シュミレーション1～発災時の行動、身の回りに潜むリスク、避難行動、避難所生活等（村上） 第11回 災害シュミレーション2～災害ボランティア、生活再建、復興（村上） 第12回 災害への備え～物品備蓄、転倒・落下・破損防止、建築物の耐震化・防火、家族・近隣・地域との連携等（村上） 第13回 学外研修～人と防災未来センター西館（村上） 第14回 小テスト、レポート発表・ディスカッション（村上） 第15回 近年の被災地の現状とこれから（村上）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：各回授業で取り上げる内容とキーワードに関係する文献資料を図書館およびweb検索で見つけて、読み込むこと（学習時間：2時間） ・授業後学習：授業内で指定した課題についてレポートを作成し、松蔭manabaコースコンテンツに提出すること（学習時間：2時間）						
授業方法	・講義・学外研修（佐藤担当回） ・講義・学外研修・ディスカッション（村上担当回）						
評価基準と評価方法	・試験（佐藤担当回）（50%）：第1～7回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)～(3)の達成度を確認する。 ・レポート発表・小テスト（村上担当回）（50%）：第8～15回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)～(3)の達成度を確認する。						
履修上の注意	・欠席回数が5回を超えた場合には、原則として単位を取得できない。 ・出席確認時に不在だった場合は、その回は欠席とする。 ・講義中に無許可で退出した場合は、欠席扱いとする。 ・学校感染症、公共交通機関の運休といったやむをえない事情により欠席したとき、証明書を提出した場合に限って考慮の対象とする。						
教科書	特に使用しない。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	健康・スポーツ総論						
担当教員	武村 政徳					科目ナンバ-	Z11100
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	健康と運動・スポーツとのかかわり、スポーツ文化の楽しみ方						
授業の概要	スポーツ文化へのかかわり方は、単に「する」ことだけに限りません。スポーツを「みる」ことは、現代社会の人々の生活にとって欠かすことのできない楽しみの一つであり、スポーツ大会やイベントを「ささえる」ことや興味や関心のあるスポーツについて「しらべる」ことも、大切な関わり方の一つです。授業では、現代社会におけるスポーツの価値を多角的に捉え、様々な楽しみ方や関わり方があることを見ていきます。また、健康に関するいくつかの視点と運動・スポーツとのかかわりについても見ていきます。						
到達目標	健康的な生活を送るために運動・スポーツの必要性があることを認識し、個人のスポーツニーズに合わせた運動・スポーツの楽しみ方を、生涯にわたり実践するための知識とスキルを身につけることができる。【知識・理解】 【態度・志向性】						
授業計画	第1回：ガイダンス、健康とスポーツについて考える 第2回：健康な生活やスポーツ活動をささえるからだ (1) 体力 第3回：健康な生活やスポーツ活動をささえるからだ (2) 筋 第4回：健康な生活やスポーツ活動をささえるからだ (3) からだをコントロールする！ 第5回：スポーツの向上をめざして (1) 筋肉づくりと筋力づくり 第6回：スポーツの向上をめざして (2) 「スタミナ」をつけるには？ 第7回：スポーツの向上をめざして (3) 様々なスポーツに必要な体力 第8回：スポーツの向上をめざして (4) 「体力がすべて」は本当？ 第9回：スポーツを楽しむための体力をつけよう!! 第10回：女子のスポーツ適性 (1) からだのなかみはスポーツ向き？ 第11回：女子のスポーツ適性 (2) 体力は大丈夫？ 第12回：トップアスリートにみるスポーツと体力 (1) からだの大きさとなかみ 第13回：トップアスリートにみるスポーツと体力 (2) 筋力とすばやさ、身体能力 第14回：成長・発達と老化と健康・スポーツ 第15回：まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：松蔭manabaのコンテンツにある配布資料を事前に熟読するようしておいて下さい。(学習時間:2時間) 授業後学習：毎回の授業で配布した資料を元に、授業で学習したことについて復習し、次回の授業で質問する事に答えられるようしておいて下さい。(学習時間:2時間)						
授業方法	講義(松蔭manabaを活用して、資料を配布したり課題レポートを課したりする)						
評価基準と評価方法	試験：35%、小レポート：55%、平常点：10%、遅刻した場合は減点 欠席回数が5回以上の者は、授業最終回の試験を受けることができません。						
履修上の注意	20分以上の遅刻は欠席扱いとします。(交通機関延着による遅刻は、延着証明書がある場合は遅刻としない) 遅刻3回で欠席1回とみなします。 携帯電話やスマートフォンは授業で使用を許可した時以外は使用しないこと。 私語、居眠りは厳禁とします。 授業中の無断退出は認めません。退出の必要がある場合は、教員に申し出ること。						
教科書	使用しない。こちらで用意する資料を配付・使用します。						
参考書	必要に応じて授業で紹介する。						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	現代社会とキリスト教／現代のキリスト教						
担当教員	木鎌 耕一郎					科目ナンバ-	Z12060
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	現代社会の倫理的諸問題とキリスト教						
授業の概要	従来キリスト教は西洋の宗教とされてきたが、16世紀以来世界中に伝えられ、今日ではいわゆる「世界キリスト教」へと変容しつつある。それに伴い、キリスト教の文化的多様性とその一致の問題に関心が向けられるようになった。また欧米を中心に進行した世俗化への反動として、人々の間に神との親密な関わりを回復しようとする渴望が広がり、「霊性」に対する関心が教派や地域を超えて深まりを見せている。この講義では、このような今日のキリスト教をめぐる諸問題に光をあて、歴史的視点も交えつつ現代世界におけるキリスト教信仰の意義に探りを入れていく。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・西洋思想とキリスト教において「人間の尊厳」という概念がどのようなものとして理解されているかを知り、概略を説明することができる。(知識・理解) ・現代社会の様々な倫理的課題とそれに対するキリスト教の関わりについて理解し、概略を説明することができる。(知識・理解) ・現代社会の倫理的課題を理解することを通して、日常の暮らしの中にある倫理的課題を発見できるようになる。(汎用的技能) (態度・志向性) 						
授業計画	第1回：オリエンテーション(授業の概要、学習方法、成績評価に関する説明) (PC必携) 第2回：西洋思想史における人間の尊厳 (PC必携) 第3回：キリスト教と人間の尊厳 (PC必携) 第4回：東洋的人間観とキリスト教 (PC必携) 第5回：隣人の範囲設定と社会的正当化 (PC必携) 第6回：優生思想 (PC必携) 第7回：日本のハンセン病政策 —第1回まとめテスト (PC必携) 第8回：人工妊娠中絶と養子縁組制度 出生前診断 (PC必携) 第9回：アメリカ社会と人工妊娠中絶 (PC必携) 第10回：生殖補助医療の現在 (PC必携) 第11回：尊厳死、安楽死 (PC必携) 第12回：脳死と臓器移植 (PC必携) 第13回：難民問題 (PC必携) 第14回：環境問題 (PC必携) 第15回：講義の総括と展望 —第2回まとめテスト (PC必携)						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前準備学習：シラバスの各回授業のキーワードを図書やインターネットによって下調べをして、自分なりにノートにまとめる。グループワークの準備。(学習時間：2時間) ・授業後学習：授業で扱った内容をノートにまとめ、授業内で示した課題に取り組む(学習時間：2時間) 						
授業方法	基本的に講義形式だが、一部の授業でグループワークを行なうことがある。この科目はBYOD(パソコン必携)科目なので、授業にはパソコンを持参すること。						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・2回のまとめテスト50%(授業内容に関する理解と知識の定着度の確認) ・毎回の授業内での課題50%(manabaの小テスト、講義内容へのコメント等) 						
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した学生は、原則として不合格とする。						
教科書	なし。随時プリントを配布する。						
参考書	浜口吉隆『キリスト教からみた生命と死の医療倫理』(東信堂) 長町裕司・高山貞美・永井敦子編『人間の尊厳を問い直す』(上智大学)						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	現代の倫理						
担当教員	濱崎 雅孝					科目ナンバ-	Z11260
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	現代社会の諸問題についての倫理的考察						
授業の概要	グローバル化が進む現代社会では、自分の意見をしっかりと持ち、それを他人にも分かる形で表現することが求められます。 この授業では、受講者一人一人がこれから社会で直面すると思われる倫理的問題を取り上げ、それについて各自が自分の意見を持つことができるように指導していきます。また、その自分の意見を、異なる世代、異なる文化背景を持つ人たちに正しく伝える技術を学びます。						
到達目標	(1) 社会に出たときにぶつかるであろう様々な人間関係の問題に対して、倫理的に正しく対処できる。【態度・志向性】 (2) 社会、文化、自然等に関わる幅広い教養を身につけることができる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 善悪について、倫理とは何か、道徳とは何か 第2回 人間について、私とは誰か、人間らしい生き方とはどういうものか 第3回 犯罪について、少年犯罪は増えているのか、その原因は何か 第4回 社会について、監視社会は平和なのか、社会を作っているのは誰か 第5回 殺人について、なぜ人を殺してはいけないのか 第6回 死刑について、死刑制度は必要か、裁判員制度は必要か 第7回 自殺について、死にたいと言う人を助けることは正しいか 第8回 教育について、なぜ勉強しなければいけないのか、義務教育は必要か 第9回 女性について、男女平等社会は実現できるのか、実現すべきなのか 第10回 母性について、母親になるとはどういうことか、母親の役割とは何か 第11回 父性について、父親の役割とは何か、父親は必要か 第12回 不倫について、不倫はなぜ悪いことなのか、浮気をするのは人間の本能か 第13回 麻薬について、麻薬の恐ろしさと、その犯罪性について 第14回 震災について、阪神大震災と東日本大震災、原発は必要か 第15回 戦争について、なぜ人類は戦争をやめないのか、これからの世界はどうなっていくか						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	新聞、雑誌、ネットニュースなどで、授業で扱った内容に関わるものを探し、その内容を把握する。また、授業で出てきた倫理学の用語などについて、不明な点は講師に質問するか、自分で調べておく。（学習時間：＜4時間＞/週）。						
授業方法	講義形式で行います。 講義で扱われたテーマについて、小レポートを提出してもらいます。 学生の小レポートの内容を講師が発表し、さらにそれについての意見を述べてもらいます。						
評価基準と評価方法	平常点：30点（毎回の小レポートの内容を2点/1点/0点で採点していきます。欠席の場合は0点になります。） 期末レポート：70点（授業全体の理解度を見るためのレポートを提出してもらいます。）						
履修上の注意	毎回、深刻な事件（殺人などを含む）を題材とするので、上の授業計画に目を通して不安や不快感を持ってしまふ人にはお勧めできません。事前に自分で判断してから履修するようにして下さい。						
教科書	特に指定はしません。毎回プリントを配布します。						
参考書	講義の中で紹介します。						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	神戸研究総論						
担当教員	単位認定者：田附 敏尚					科目ナンバ-	Z12200
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	歴史・生活・芸術文化などの面からの「神戸」探究						
授業の概要	本学の位置する「神戸」は「モダンな街」として語られるが、150年前の「神戸開港」以前にも長い歴史があり、各時代においてさまざまなドラマを展開してきた。そのような「神戸」の様々な面を、本学の教員と神戸市立博物館の学芸員がそれぞれの専門分野から多角的に論じ、その姿を明らかにする。						
到達目標	本学の所在地「神戸」について、各回で学んだ内容を理解し、多角的にその特徴や魅力を述べることができる。（知識・理解（2）） 地域社会への貢献に対する感覚を身につけることができる。（態度・志向性（2））						
授業計画	<p>オムニバス科目（田附敏尚：3回担当、江弘毅、徳山孝子、鈴木亮太、西川純司、青木稔弥、丸山果織：各1回担当、神戸市立博物館学芸員：6回担当）</p> <p>【総論】 1 「神戸研究総論」について（田附敏尚） ：本講義の目的と概要について解説する。</p> <p>【歴史】 2 考古学（神戸市立博物館学芸員） ：六甲山系南麓の弥生時代の遺跡に着目し、高地性集落と銅鐸の謎について解説する。 3 中世史（神戸市立博物館学芸員） ：今日も残る歴史の足跡をたどりながら、中世の神戸の様子を考察する。 ※授業担当者の都合により、「神戸の美術工芸品②」の後に回す 4 近世史（神戸市立博物館学芸員） ：神戸市立博物館所蔵の古地図を中心に神戸の歴史を探る。 5 近代史（神戸市立博物館学芸員） ：近代神戸の大きな特徴であり、神戸のイメージを形成するもととなった旧神戸外国人居留地について、その成り立ちから返還までの歴史を居留地に関わった人物や建築物等に注目して紹介する。</p> <p>【生活】 6 方言（田附敏尚） ：神戸周辺で使われていることばの変容について、複数の言語地図等から考察する。 7 食生活（江弘毅） ：開港以来の神戸の洋食の系譜を概説する。 8 ファッション（徳山孝子） ：「神戸ファッション」イコール「おしゃれ」というイメージを歴史的背景から読み解く。 9 創造性に着目したまちづくり（鈴木亮太） ：創造都市・創造産業とは何かを学び、神戸市による様々な施策について考察する。 10 神戸のイメージ（西川純司） ：映画やドラマ、漫画に描かれた神戸のまちのイメージを辿る。</p> <p>【芸術文化】 11 神戸の美術工芸品①（神戸市立博物館学芸員） ：神戸市立博物館のびいどろ史料庫コレクション（ガラス工芸品）を紹介し、その意義を探る。 12 神戸の美術工芸品②（神戸市立博物館学芸員） ：神戸市立博物館の美術コレクションを紹介し、その意義を探る。 13 近現代文学（青木稔弥） ：1900年9月9日、夏目漱石は、諏訪山温泉に泊まった。神戸市街を俯瞰できる今は存在しない温泉である。漱石と神戸の関係を考える。 14 神戸の書と芸術（丸山果織） ：書が海外でも評価されるきっかけとなった、神戸の書家と画家の交流について論じる。</p> <p>【総括】 15 総括（田附敏尚） ：ここまで学んだ内容を復習する課題に取り組む。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前：授業計画に従って、次回の授業内容について図書館・インターネット等で下調べをすること。（学習時間：＜2時間＞）</p> <p>授業後：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理。（学習時間：＜2時間＞） 授業で取り上げた場所へ足を運び、実感することも望ましい。</p>						
授業方法	<p>講義（オムニバス）</p> <p>【実務経験のある教員等による授業】 神戸市立博物館の学芸員を講師として招き、博物館学芸員としての実務の経験を基にして、多角的かつ実践的な視点から「神戸」に関する研究を指導する。</p>						

評価基準と評価方法	各回の課題・リアクションペーパー65%、総括課題（テスト）35% ・各回で簡単な課題を課し、各回で評価する。 ・総括の回に、内容の復習もかねて簡便なテストを行う。 これらを単位認定者が取りまとめ、総合的に最終評価を下す。
履修上の注意	1. 毎回、授業内（授業後の場合もある）で課題・リアクションペーパーを提出する。 2. 各回の課題・リアクションペーパーは、授業内でmanabaからの提出を求めることがあるので、受講者はスマートフォン（あるいはPC・タブレット等）を持っているのであれば用意しておいてほしい。ただし、これらを使うかは回ごとに異なる可能性があるため、その回の教員の指示に従うこと。 3. 授業回数の3分の1以上欠席した者については、特段の理由ある場合を除き単位を認めない。 4. 私語を慎み、居眠りなども極力しないようにすること。 注意しても直らない場合は、退席を命じることがある（退席者は当該の回は欠席と見做す）。
教科書	使用しない。プリントを配布することがある。
参考書	授業時に随時紹介する。

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	神戸松蔭とキリスト教						
担当教員	木鎌 耕一郎					科目ナンバ-	Z11010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	神戸松蔭の歴史とキリスト教の精神を理解する						
授業の概要	この授業では、聖公会キリスト教とはどのようなものか、日本におけるキリスト教伝道および松蔭女子学院の歴史を知ることを通して、本学の建学の精神を学ぶ。それは同時に、本学が発展してきた神戸という土地とキリスト教の関わりから地域社会への貢献について考えることもある。また、キリスト教と芸術・音楽の関わりを学ぶことから、キリスト教をより幅広く理解し、社会活動について具体的に学ぶことを通してキリスト教の愛の精神について考える。						
到達目標	<p>(1) キリスト教の歴史と聖公会に関する基本的な知識及び神戸松蔭の歴史と建学の精神を説明できる。【知識・理解】</p> <p>(2) キリスト教と芸術の関りの基礎的知識をもとに、キリスト教の西洋文化への影響を述べることができる。【知識・理解】</p> <p>(3) キリスト教の活動とその愛の精神について述べるができる。【知識・理解】</p> <p>(4) いのちと愛の学びから、他者への寛容や共生、地域社会への貢献の感覚を身につける。【態度・志向性】</p>						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、神戸松蔭での学び（ディプロマポリシー・学位授与の方針）[PC必携]</p> <p>第2回 キリスト教とは－暮らしの中のキリスト教[PC必携]</p> <p>第3回 神戸松蔭で体験するキリスト教[PC必携]</p> <p>第4回 聖公会とは－成立史と特徴[PC必携]</p> <p>第5回 日本におけるキリスト教伝道（1）－キリシタンの時代[PC必携]</p> <p>第6回 日本におけるキリスト教伝道（2）－明治期以降の伝道[PC必携]</p> <p>第7回 神戸松蔭の歴史とキリスト教（1）－神戸にきた再宣教時代の宣教師たち[PC必携]</p> <p>第8回 神戸松蔭の歴史とキリスト教（2）－松蔭女学校の創立から高等教育への展開[PC必携]</p> <p>第9回 キリスト教と芸術（1）－キリスト教音楽[PC必携]</p> <p>第10回 キリスト教と芸術（2）－キリスト教美術[PC必携]</p> <p>第11回 いのちを考える（1）－聖書における「いのち」[PC必携]</p> <p>第12回 いのちを考える（2）－社会的実践例[PC必携]</p> <p>第13回 キリスト教の活動と愛の精神（1）－聖書における「隣人愛」[PC必携]</p> <p>第14回 キリスト教の活動と愛の精神（2）－マザー・テレサを例に[PC必携]</p> <p>第15回 授業内容のまとめと期末試験</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ul style="list-style-type: none"> ・準備学習：シラバスをもとにあらかじめ書籍、新聞、Webサイト等を通して関連情報を収集する（学修時間：2時間） ・授業後の学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する（学習時間2時間） 						
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的に講義形式で行う。 ・必要に応じてディスカッションや意見を求めることがある。 ・この科目はBYOD指定科目である。授業にはパソコンを持参すること。 						
評価基準と評価方法	<p>授業内での提出物60%、期末試験40%。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内での提出物：松蔭manabaを用いた小テストやレポート（講義内容についてのコメントの内容・記述的確さを評価する）。 ・期末試験：到達目標（1）から（4）の到達度の確認。 						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・この科目はBYOD指定科目である。授業にはパソコンを持参すること。 ・松蔭manabaの「コースニュース」や「掲示板」で重要な連絡・指示を行うので、「リマインダ」をオンにし連絡事項はすぐに確認すること。 ・期末試験を行うので、各回のノートや配布物は保存しておくこと。 						
教科書	使用しない						
参考書	<p>『聖書 聖書協会共同訳 旧約聖書続編付き 引照・注付き』日本聖書協会 マーク・チャップマン『聖公会物語 一英国国教会から世界へ』かんよう出版 五野井 隆史『日本キリスト教史』吉川弘文館 校史編纂委員会編集『松蔭女子学院創立120周年記念誌：1892～2012』 神戸松蔭女子学院大学校史編纂委員会編集『神戸松蔭女子学院大学60周年記念誌：1947～2007』 金澤正剛『キリスト教と音楽 ヨーロッパ音楽の源流をたずねて』音楽之友社 吉田実『絵画と御言葉 美術作品に表されたキリスト教信仰』一麦出版社 工藤裕美、シリル・ヴェリヤト『宣教師マザーテレサの生涯－スコピエからカルカッタへ』ぎょうせい</p>						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	神戸松蔭とキリスト教						
担当教員	木鎌 耕一郎					科目ナンバ-	Z11010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	神戸松蔭の歴史とキリスト教の精神を理解する						
授業の概要	この授業では、聖公会キリスト教とはどのようなものか、日本におけるキリスト教伝道および松蔭女子学院の歴史を知ることを通して、本学の建学の精神を学ぶ。それは同時に、本学が発展してきた神戸という土地とキリスト教の関わりから地域社会への貢献について考えることもある。また、キリスト教と芸術・音楽の関わりを学ぶことから、キリスト教をより幅広く理解し、社会活動について具体的に学ぶことを通してキリスト教の愛の精神について考える。						
到達目標	<p>(1) キリスト教の歴史と聖公会に関する基本的な知識及び神戸松蔭の歴史と建学の精神を説明できる。【知識・理解】</p> <p>(2) キリスト教と芸術の関りの基礎的知識をもとに、キリスト教の西洋文化への影響を述べることができる。【知識・理解】</p> <p>(3) キリスト教の活動とその愛の精神について述べるができる。【知識・理解】</p> <p>(4) いのちと愛の学びから、他者への寛容や共生、地域社会への貢献の感覚を身につける。【態度・志向性】</p>						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、神戸松蔭での学び（ディプロマポリシー・学位授与の方針）[PC必携]</p> <p>第2回 キリスト教とは－暮らしの中のキリスト教[PC必携]</p> <p>第3回 神戸松蔭で体験するキリスト教[PC必携]</p> <p>第4回 聖公会とは－成立史と特徴[PC必携]</p> <p>第5回 日本におけるキリスト教伝道（1）－キリシタンの時代[PC必携]</p> <p>第6回 日本におけるキリスト教伝道（2）－明治期以降の伝道[PC必携]</p> <p>第7回 神戸松蔭の歴史とキリスト教（1）－神戸にきた再宣教時代の宣教師たち[PC必携]</p> <p>第8回 神戸松蔭の歴史とキリスト教（2）－松蔭女学校の創立から高等教育への展開[PC必携]</p> <p>第9回 キリスト教と芸術（1）－キリスト教音楽[PC必携]</p> <p>第10回 キリスト教と芸術（2）－キリスト教美術[PC必携]</p> <p>第11回 いのちを考える（1）－聖書における「いのち」[PC必携]</p> <p>第12回 いのちを考える（2）－社会的実践例[PC必携]</p> <p>第13回 キリスト教の活動と愛の精神（1）－聖書における「隣人愛」[PC必携]</p> <p>第14回 キリスト教の活動と愛の精神（2）－マザー・テレサを例に[PC必携]</p> <p>第15回 授業内容のまとめと期末試験</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ul style="list-style-type: none"> ・準備学習：シラバスをもとにあらかじめ書籍、新聞、Webサイト等を通して関連情報を収集する（学修時間：2時間） ・授業後の学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する（学習時間2時間） 						
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的に講義形式で行う。 ・必要に応じてディスカッションや意見を求めることがある。 ・この科目はBYOD指定科目である。授業にはパソコンを持参すること。 						
評価基準と評価方法	<p>授業内での提出物60%、期末試験40%。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内での提出物：松蔭manabaを用いた小テストやレポート（講義内容についてのコメントの内容・記述的確かさを評価する）。 ・期末試験：到達目標（1）から（4）の到達度の確認。 						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・この科目はBYOD指定科目である。授業にはパソコンを持参すること。 ・松蔭manabaの「コースニュース」や「掲示板」で重要な連絡・指示を行うので、「リマインダ」をオンにし連絡事項はすぐに確認すること。 ・期末試験を行うので、各回のノートや配布物は保存しておくこと。 						
教科書	使用しない						
参考書	<p>『聖書 聖書協会共同訳 旧約聖書続編付き 引照・注付き』日本聖書協会 マーク・チャップマン『聖公会物語 一英国国教会から世界へ』かんよう出版 五野井 隆史『日本キリスト教史』吉川弘文館 校史編纂委員会編集『松蔭女子学院創立120周年記念誌：1892～2012』 神戸松蔭女子学院大学校史編纂委員会編集『神戸松蔭女子学院大学60周年記念誌：1947～2007』 金澤正剛『キリスト教と音楽 ヨーロッパ音楽の源流をたずねて』音楽之友社 吉田実『絵画と御言葉 美術作品に表されたキリスト教信仰』一麦出版社 工藤裕美、シリル・ヴェリヤト『宣教師マザーテレサの生涯－スコピエからカルカッタへ』ぎょうせい</p>						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	神戸松蔭とキリスト教						
担当教員	木鎌 耕一郎					科目ナンバ-	Z11010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	神戸松蔭の歴史とキリスト教の精神を理解する						
授業の概要	この授業では、聖公会キリスト教とはどのようなものか、日本におけるキリスト教伝道および松蔭女子学院の歴史を知ることを通して、本学の建学の精神を学ぶ。それは同時に、本学が発展してきた神戸という土地とキリスト教の関わりから地域社会への貢献について考えることもある。また、キリスト教と芸術・音楽の関わりを学ぶことから、キリスト教をより幅広く理解し、社会活動について具体的に学ぶことを通してキリスト教の愛の精神について考える。						
到達目標	<p>(1) キリスト教の歴史と聖公会に関する基本的な知識及び神戸松蔭の歴史と建学の精神を説明できる。【知識・理解】</p> <p>(2) キリスト教と芸術の関りの基礎的知識をもとに、キリスト教の西洋文化への影響を述べることができる。【知識・理解】</p> <p>(3) キリスト教の活動とその愛の精神について述べるができる。【知識・理解】</p> <p>(4) いのちと愛の学びから、他者への寛容や共生、地域社会への貢献の感覚を身につける。【態度・志向性】</p>						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、神戸松蔭での学び（ディプロマポリシー・学位授与の方針）[PC必携]</p> <p>第2回 キリスト教とは－暮らしの中のキリスト教[PC必携]</p> <p>第3回 神戸松蔭で体験するキリスト教[PC必携]</p> <p>第4回 聖公会とは－成立史と特徴[PC必携]</p> <p>第5回 日本におけるキリスト教伝道（1）－キリシタンの時代[PC必携]</p> <p>第6回 日本におけるキリスト教伝道（2）－明治期以降の伝道[PC必携]</p> <p>第7回 神戸松蔭の歴史とキリスト教（1）－神戸にきた再宣教時代の宣教師たち[PC必携]</p> <p>第8回 神戸松蔭の歴史とキリスト教（2）－松蔭女学校の創立から高等教育への展開[PC必携]</p> <p>第9回 キリスト教と芸術（1）－キリスト教音楽[PC必携]</p> <p>第10回 キリスト教と芸術（2）－キリスト教美術[PC必携]</p> <p>第11回 いのちを考える（1）－聖書における「いのち」[PC必携]</p> <p>第12回 いのちを考える（2）－社会的実践例[PC必携]</p> <p>第13回 キリスト教の活動と愛の精神（1）－聖書における「隣人愛」[PC必携]</p> <p>第14回 キリスト教の活動と愛の精神（2）－マザー・テレサを例に[PC必携]</p> <p>第15回 授業内容のまとめと期末試験</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ul style="list-style-type: none"> ・準備学習：シラバスをもとにあらかじめ書籍、新聞、Webサイト等を通して関連情報を収集する（学修時間：2時間） ・授業後の学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する（学習時間2時間） 						
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的に講義形式で行う。 ・必要に応じてディスカッションや意見を求めることがある。 ・この科目はBYOD指定科目である。授業にはパソコンを持参すること。 						
評価基準と評価方法	<p>授業内での提出物60%、期末試験40%。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内での提出物：松蔭manabaを用いた小テストやレポート（講義内容についてのコメントの内容・記述的確さを評価する）。 ・期末試験：到達目標（1）から（4）の到達度の確認。 						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・この科目はBYOD指定科目である。授業にはパソコンを持参すること。 ・松蔭manabaの「コースニュース」や「掲示板」で重要な連絡・指示を行うので、「リマインダ」をオンにし連絡事項はすぐに確認すること。 ・期末試験を行うので、各回のノートや配布物は保存しておくこと。 						
教科書	使用しない						
参考書	<p>『聖書 聖書協会共同訳 旧約聖書続編付き 引照・注付き』日本聖書協会 マーク・チャップマン『聖公会物語 一英国国教会から世界へ』かんよう出版 五野井 隆史『日本キリスト教史』吉川弘文館 校史編纂委員会編集『松蔭女子学院創立120周年記念誌：1892～2012』 神戸松蔭女子学院大学校史編纂委員会編集『神戸松蔭女子学院大学60周年記念誌：1947～2007』 金澤正剛『キリスト教と音楽 ヨーロッパ音楽の源流をたずねて』音楽之友社 吉田実『絵画と御言葉 美術作品に表されたキリスト教信仰』一麦出版社 工藤裕美、シリル・ヴェリヤト『宣教師マザーテレサの生涯－スコピエからカルカッタへ』ぎょうせい</p>						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	神戸松蔭とキリスト教						
担当教員	木鎌 耕一郎					科目ナンバ-	Z11010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	神戸松蔭の歴史とキリスト教の精神を理解する						
授業の概要	この授業では、聖公会キリスト教とはどのようなものか、日本におけるキリスト教伝道および松蔭女子学院の歴史を知ることを通して、本学の建学の精神を学ぶ。それは同時に、本学が発展してきた神戸という土地とキリスト教の関わりから地域社会への貢献について考えることもある。また、キリスト教と芸術・音楽の関わりを学ぶことから、キリスト教をより幅広く理解し、社会活動について具体的に学ぶことを通してキリスト教の愛の精神について考える。						
到達目標	<p>(1) キリスト教の歴史と聖公会に関する基本的な知識及び神戸松蔭の歴史と建学の精神を説明できる。【知識・理解】</p> <p>(2) キリスト教と芸術の関りの基礎的知識をもとに、キリスト教の西洋文化への影響を述べることができる。【知識・理解】</p> <p>(3) キリスト教の活動とその愛の精神について述べるができる。【知識・理解】</p> <p>(4) いのちと愛の学びから、他者への寛容や共生、地域社会への貢献の感覚を身につける。【態度・志向性】</p>						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、神戸松蔭での学び（ディプロマポリシー・学位授与の方針）[PC必携]</p> <p>第2回 キリスト教とは－暮らしの中のキリスト教[PC必携]</p> <p>第3回 神戸松蔭で体験するキリスト教[PC必携]</p> <p>第4回 聖公会とは－成立史と特徴[PC必携]</p> <p>第5回 日本におけるキリスト教伝道（1）－キリシタンの時代[PC必携]</p> <p>第6回 日本におけるキリスト教伝道（2）－明治期以降の伝道[PC必携]</p> <p>第7回 神戸松蔭の歴史とキリスト教（1）－神戸にきた再宣教時代の宣教師たち[PC必携]</p> <p>第8回 神戸松蔭の歴史とキリスト教（2）－松蔭女学校の創立から高等教育への展開[PC必携]</p> <p>第9回 キリスト教と芸術（1）－キリスト教音楽[PC必携]</p> <p>第10回 キリスト教と芸術（2）－キリスト教美術[PC必携]</p> <p>第11回 いのちを考える（1）－聖書における「いのち」[PC必携]</p> <p>第12回 いのちを考える（2）－社会的実践例[PC必携]</p> <p>第13回 キリスト教の活動と愛の精神（1）－聖書における「隣人愛」[PC必携]</p> <p>第14回 キリスト教の活動と愛の精神（2）－マザー・テレサを例に[PC必携]</p> <p>第15回 授業内容のまとめと期末試験</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ul style="list-style-type: none"> ・準備学習：シラバスをもとにあらかじめ書籍、新聞、Webサイト等を通して関連情報を収集する（学修時間：2時間） ・授業後の学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する（学習時間2時間） 						
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的に講義形式で行う。 ・必要に応じてディスカッションや意見を求めることがある。 ・この科目はBYOD指定科目である。授業にはパソコンを持参すること。 						
評価基準と評価方法	<p>授業内での提出物60%、期末試験40%。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内での提出物：松蔭manabaを用いた小テストやレポート（講義内容についてのコメントの内容・記述的確かさを評価する）。 ・期末試験：到達目標（1）から（4）の到達度の確認。 						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・この科目はBYOD指定科目である。授業にはパソコンを持参すること。 ・松蔭manabaの「コースニュース」や「掲示板」で重要な連絡・指示を行うので、「リマインダ」をオンにし連絡事項はすぐに確認すること。 ・期末試験を行うので、各回のノートや配布物は保存しておくこと。 						
教科書	使用しない						
参考書	<p>『聖書 聖書協会共同訳 旧約聖書続編付き 引照・注付き』日本聖書協会 マーク・チャップマン『聖公会物語 一英国国教会から世界へ』かんよう出版 五野井 隆史『日本キリスト教史』吉川弘文館 校史編纂委員会編集『松蔭女子学院創立120周年記念誌：1892～2012』 神戸松蔭女子学院大学校史編纂委員会編集『神戸松蔭女子学院大学60周年記念誌：1947～2007』 金澤正剛『キリスト教と音楽 ヨーロッパ音楽の源流をたずねて』音楽之友社 吉田実『絵画と御言葉 美術作品に表されたキリスト教信仰』一麦出版社 工藤裕美、シリル・ヴェリヤト『宣教師マザーテレサの生涯－スコピエからカルカッタへ』ぎょうせい</p>						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	社会福祉概論						
担当教員	中村 和子					科目ナンバ	Z11210
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	社会福祉において「より良い生活の確立」と「快い生活」について考えながら、身近な生活における基本的な社会福祉の制度を学ぶ。						
授業の概要	日常生活における社会福祉の基本的な制度や知識を講義形式で行う。身近な生活をテーマに学習資料として新聞スクラップ記事、視覚教材（動画など）や「学習シート」という授業で提示する資料、講師自身が日本（一部アメリカ）で経験した事例、エピソードを交えて学ぶ。授業中に他の受講生と互いの考えや意見を共有することで更に学びや自分の考えを深める。個別で授業外学修として「事前学習」に取り組んだ後、それをを用いてグループワーク（ディスカッションを含む）に繋げ、個人、グループで主体的に学ぶ、考えることを目指す。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉の基礎的な制度と知識の学びを通して社会や社会福祉の現状を知り、学生が学んだ知識を自身の生活に応用でき、授業終了後も福祉に関心を持つきっかけになることができる【知識・理解】 2. 社会福祉の領域で「より良い生活の確立」、「快い生活」について考え、その考えや学んだ知識を他者に表現できる【知識・理解】 3. 授業で学んだことを通して、自分は「どう生きるか」を自分の事として考えることができる【知識・理解】 4. 授業テーマについて新聞スクラップ記事を活用した「授業外の学修-事前学習」のワークを通して、社会の出来事に自ら疑問を持ち、その疑問に対して深く考え、そして調べることで、「より良い生活の確立」、「快い生活」について考えることができる。グループ内でプレゼンテーションによって他者に自分の考えを論じることができ、また他者の考えや意見を尊重して聴くこと、問いかけることができる【態度・志向性】 						
授業計画	<p>第1回 「履修上の注意事項」の一部説明（全体はmanabaに提示） 社会福祉-ゆりかごから墓場まで 快い生活とは、社会福祉の理念とより良い生活</p> <p>第2回 戦前の福祉-一家長制度、慈善奉仕/戦後の昭和の社会福祉の歴史</p> <p>第3回 平成から令和の社会福祉とボランティア</p> <p>第4回 家庭・家族と福祉1-結婚（性別役割分業の歴史-明治民法と一家長制度、教育と良妻賢母</p> <p>第5回 家庭・家族と福祉2-家族とは（男性の育児休暇制度、家族を考える、ワークライフバランス）</p> <p>第6回 社会的養護-里親制度、特別養子縁組</p> <p>第7回 雇用と社会保障1-就職氷河期、雇用保険、高齢者雇用/公的医療保険</p> <p>第8回 第1回目小テスト 高齢者と社会保障2-高齢者の生活/公的年金</p> <p>第9回 高齢者と社会保障3-在職老齢年金、年金の歴史</p> <p>第10回 介護と社会保障4-ジェンダーと介護、介護問題/介護保険</p> <p>第11回 グループワーク-授業外の学修「事前学習」を用いてグループ内でのプレゼンテーションとディスカッション</p> <p>第12回 精神障がい者と福祉1-依存症と自助グループ</p> <p>第13回 障がい者と雇用-法定雇用率、自立支援事業とジョブコーチ制度/身体障害者補助犬法と入店拒否</p> <p>第14回 身体障がい者と生活-介助犬による身体障害者補助犬法を動画で学ぶ動画視聴後のワーク</p> <p>第15回 小テスト（2回目）/ワーク（自分は「どう生きるか」を考える</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ol style="list-style-type: none"> (1) ワークシート：授業中に学んだことについて幾つかの問に具体的に解答を述べ、提出。11回（学習時間各60分で合計660時間） (2) 事前学習/事後学習：新聞スクラップ記事を活用し、その記事に疑問を持ち、深く考え、調べ具体的に記述するワーク。それを授業中にグループ内でプレゼンテーション（紹介）ができるために準備する。事後学習として、他の受講生から学べたことなどから問に沿って解答し、提出するための学修、事前・事後学習の提出は松蔭manabaから。（合計 学習時間900分） (3) 小テスト（知識確認テスト）のための予習・復習：毎回の授業後に資料の「学習シート」の知識の予習と学習。（学習時間各回90分で合計1350分） <p>(1)～(3)合計 2910分</p>						
授業方法	<ol style="list-style-type: none"> (1) 知識習得のための講義形式。 (2) 自分の考えを論じ、他者と共有するためのディスカッション、プレゼンテーションのアクティブラーニング形式。 (3) 教材・資料学習-DVD、動画、著書の紹介、事例やエピソード、新聞スクラップ記事、資料として「学習シート」（授業で配布またはmanabaから提示）などを使用して理解を深める。 (4) 授業外の学修-事前・事後学習はPBL（課題解決型学習）。 (5) 授業で学んだことについて個別/グループワークシートを授業内外で取り組む（提出）。 						
評価基準と評価方法	<ol style="list-style-type: none"> (a) 小テスト（知識確認テスト）（2回の小テストの合計得点の35%）：予習/復習と積極的な受講をして知識習得と理解度を高めたかを確認するために知識中心の設問で評価する。到達目標(1)に関する到達度の確認。 授業内での提出物 65%：授業中の個別/グループワークシート、授業外の学修（事前/j事後学習）によってどのようなことが学べ、考えたのか具体的に自分の言葉で述べることができ、提出期限厳守できたか評価する。 評価方法の詳細は、授業開始時に「履修上の注意事項」を参照。到達目標(2)、(3)と(4)に関する到達度を確認（事前/事後学習については、到達目標(2)、(4)に関する到達度の確認）。 (b) フィードバックとコメントは、事前/事後学習を含めて他のワークについては、授業中に全体的に行う。個別ワークを紹介する場合は、匿名行う。場合によっては、個別でmanabaからコメントを行うこともある。 (c) 出席管理は、松蔭ポータルに授業終了後2週間以内に入力する予定のため、各自で管理チェックすること。この授業で定めている欠席回数に注意すること。 						

履修上の注意	(1) 授業中は、私語厳禁。携帯電話については、授業中に講師が指示したとき以外は授業中は基本的にはカバンの中に入れて受講。携帯機器（携帯電話）で授業に関係ない画面や操作をしているときは、全体の成績から減点をすることもある。 (2) 個別/グループワーク、視覚教材を授業中に使用して学ぶことが多いので、毎回出席することが原則。 (3) 5回以上の欠席（5回目含む）は最終成績は、全ての提出物や小テストを受けていても最終成績は「不可」となる。事前に実習や就活などで欠席することが分かっている場合は、その日程を速やかに授業開始または終了時に教室で直接伝えてください。その時に、学生課で申請した用紙のコピーや就活の証明できるコピーを提出すること。 (4) 遅刻・早退は、15分以内とし、連続の遅刻の場合は、授業の学びの妨げとなることもあるため事情を尋ねる時もある。詳細は、第1回目にmanabaから提示する「履修上の注意事項」を必ず参照すること。感染症で欠席した場合は、後日、その旨を証明できるように学生課で申請手続きをした場合は、そのコピーを提出すること。その場合は、欠席した授業については、調整する場合もある（それ以外の欠席においての措置などはない）。
教科書	使用しない。教材・資料を利用する予定（授業中、またはmanabaに提示）。
参考書	iDeCoの（個人型確定拠出年金）始め方入門/第1版/フカザワナオコ/原書房/2020年3月/ISBN978-4-478-10985-4 里親土井ホームの子どもたち/第6刷/土井高德/福村出版/2020年4月25日/ISBN978-4-571-42016-0 ※参考書は、個人で購入する必要はありません。

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	諸宗教とキリスト教／キリスト教と諸宗教						
担当教員	木鎌 耕一郎					科目ナンバ-	Z12070
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	多元時代のキリスト教と諸宗教						
授業の概要	国際的な人の移動が日常化し、諸宗教が相接する機会が増えた今日、世界の諸宗教をより良く理解することが不可欠になっている。本講座の目的は世界の主要宗教を概観すると共に、それとの比較を通してキリスト教についての理解を深めていくことにある。まず宗教とは何かを考え、旧新約聖書の信仰を踏まえた上で、キリスト教と共に世界宗教である仏教やイスラム教などを取り上げ、これらをキリスト教と対比する。また、日本人の宗教性にも光を当てる。こうした私たちの生きる「地球村」への理解を深めることも本講座の目的である。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の諸宗教に見られる多様な信仰構造について理解し、説明することができる。(知識・理解) ・日本人の宗教観と日本宗教史の基礎について理解し、説明することができる。(知識・理解) ・ユダヤ教とキリスト教の関係性について理解し、説明することができる。(知識・理解) ・諸宗教に関する学びを通して、異文化への関心を高め、他者への敬意を意識することができる。(態度・志向性) 						
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション（授業の概要、学習方法、成績評価に関する説明）（PC必携）</p> <p>第2回：宗教の起源（考古学的成果に見る宗教の萌芽、19世紀の宗教研究、アニミズム）（PC必携）</p> <p>第3回：神話（神話の源流、創世神話の類型、世界創世神話の事例、旧約聖書「創世記」、神話批判）（PC必携）</p> <p>第4回：儀礼（宗教儀礼と年中行事、消極的儀礼と積極的儀礼、イニシエーション）（PC必携）</p> <p>第5回：諸宗教の礼拝形式（1）（様々な礼拝、祈りの表現）（PC必携）</p> <p>第6回：諸宗教の礼拝形式（2）（ユダヤ教、キリスト教、イスラム教）（PC必携）</p> <p>第7回：日本人の宗教観（宗教統計調査、宗教意識の国際比較）—第1回まとめテスト（PC必携）</p> <p>第8回：日本の宗教概観（神道、仏教、神仏習合）（PC必携）</p> <p>第9回：近代日本の宗教政策（キリスト教の受容、国家神道、祭政一致と政教分離、神仏分離令）（PC必携）</p> <p>第10回：日本文学に見るキリスト教の受容（芥川龍之介、遠藤周作）（PC必携）</p> <p>第11回：国教制度と政教分離（西洋の国教制度史、宗教改革と国教制度、近代革命と政教分離）（PC必携）</p> <p>第12回：西洋におけるユダヤ教とキリスト教の関係史（エクレシアとシナゴグ近代革命、ハスカラ）（PC必携）</p> <p>第13回：反ユダヤ主義の思想的根拠（無神論、フォイエールバッハ、マルクス、ニーチェ）（PC必携）</p> <p>第14回：現代におけるユダヤ教とキリスト教の対話（第二バチカン公会議、ヨハネ・パウロ2世）（PC必携）</p> <p>第15回：宗教間対話の展開（講義の総括と展望）—第2回まとめテスト（PC必携）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前準備学習：シラバスの各回授業のキーワードを図書やインターネットによって下調べをして、自分なりにノートにまとめる。（学習時間：2時間） ・授業後学習：授業で扱った内容をノートにまとめ、授業内で示した課題に取り組む（学習時間：2時間） 						
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・講義。一部の授業でグループワークを行なうことがある。 ・学期中に2回のまとめテストを実施する。 ・この科目はBYOD（パソコン必携）科目なので、授業にはパソコンを持参すること。 						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内での提出物50%（manabaの小テストや講義内容へのコメント） ・2回のまとめテスト50%（授業内容に関する理解と知識の定着度の確認） 						
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した学生は、原則として不合格とする。						
教科書	なし。随時プリントを配布する。						
参考書	<p>石井研士『プレステップ宗教学（プレステップシリーズ 08）』弘文堂</p> <p>小原克博『一神教とは何か——キリスト教、ユダヤ教、イスラームを知るために』（平凡社新書）</p>						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	ジェンダー論演習						
担当教員	松並 知子					科目ナンバ-	Z11140
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	主にメディアの中にある具体的な事例を通して、ジェンダーの理論や問題を分析する。その際、ディスカッションやレポート作成などを行うことにより、自分自身の中のジェンダー意識を再考する。						
授業の概要	女性が被害に合うことが多いデートDVや女性に多い依存症、また母娘問題などの身近な問題を、漫画やエッセイを通して学習する。また、固定観念やイメージがいかにジェンダー意識に影響を与えているのかを考察する。さらに、ジェンダーに関する問題を自ら調べ意見を述べることによって、理解を深め、ディスカッションなどを通して、多様な意見や価値観に触れることで、考えを深める。						
到達目標	(1) ジェンダーやセクシュアリティに関する概念や問題と日本社会の現状を理解している。【知識・理解】 (2) ジェンダーに関する問題や社会状況などを理解し、発表することができる。【汎用的技能】 (3) 授業で扱った事柄を身近な問題として捉え、問題の解決に向けて真剣に考え、行動することができる。【態度・志向性】						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：授業内容や授業計画、授業方法 2. 漫画『だめんず・うぉ～か～』に見るジェンダー (1) 自己愛とDVの関連 3. 漫画『だめんず・うぉ～か～』に見るジェンダー (2) 女性性・男性性とDV 4. 漫画『だめんず・うぉ～か～』に見るジェンダー (3) 恋愛依存症とデートDV 5. 視聴覚教材を見て、デートDVについて考える 6. 作家、中村うさぎに見るジェンダー (1) 中村うさぎが抱える心理的問題 7. 作家、中村うさぎに見るジェンダー (2) 依存症とその要因 8. 依存症とその生起要因について考える 9. プリンセス・ストーリーに見るジェンダー (1)：ディズニー映画「シンデレラ」 10. プリンセス・ストーリーに見るジェンダー (2)：映画「エバー・アフター」 11. プリンセス・ストーリーに見るジェンダー (3)：プリンセス・ストーリーに込められたメッセージ 12. 漫画『イグアナの娘』に見るジェンダー (1) 漫画に見る母娘関係の分析 13. 漫画『イグアナの娘』に見るジェンダー (2) 母と娘の間に生じる葛藤 14. 漫画『イグアナの娘』に見るジェンダー (3) 母を支える娘たち 15. まとめ、レポート作成 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	ジェンダーをキーワードに日頃からニュースなどに興味を持ち、情報を得ていること。また参考文献などを使って下調べをしておくこと（学習時間：2時間）。授業中に配布した資料やプリントを使って復習を行うこと。また、授業内で紹介した参考文献などを活用して理解を深めること（学習時間：2時間）。						
授業方法	質疑応答やレポート作成、視聴覚教材の視聴などの課題をとり入れることにより、自分自身で考え、表現する機会を持つ。グループ・ディスカッションや心理テストなども行う。また、毎回、授業の後にレポートを提出してもらい、評価の対象とする。さらに、発言した場合は平常点が加点される。双方向型の授業なので、積極的な発言が奨励される。						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の後に提出するレポート 60% ・授業への積極的参加態度（発言・ディスカッション） 40% 						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・授業初回に授業内容と授業計画を説明するので、できる限り、出席すること。 ・私語は厳禁、携帯電話は鞆にしまうなど、ルールを守る人に限る。 <p>★5回以上欠席した場合は評価の対象外とする。</p>						
教科書	なし						
参考書	「ジェンダーの心理学ハンドブック」青野篤子・赤澤淳子・松並知子、ナカニシヤ出版、2008 「アクティブラーニングで学ぶジェンダー～現代を生きるための12の実践」青野篤子、ミネルヴァ書房、2016 「女性の生きづらさとジェンダー～「片隅」の言葉と向き合う心理学」心理科学研究会ジェンダー部会、有斐閣、2021						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	ジェンダー論入門						
担当教員	松並 知子					科目ナンバ-	Z11130
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	ジェンダーに関する理論や概念を理解し、日常生活におけるジェンダー問題を考察する。						
授業の概要	ジェンダーやセクシュアリティに関する理論や問題について概説し、基本的な知識を身につける。また、日本社会における女性を取り巻く環境や問題について考察し、日常生活の中にジェンダーがどのように浸透しているかを見抜く視点を共有する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ジェンダーやセクシュアリティに関する概念や問題を理解し知識を身につけることができる【知識・理解】 2. 日本社会の現状を理解し、自分の問題として、考えることができる【知識・理解】 3. 人々の心の中にある固定観念や偏見についても考察することができる【態度・志向性】 4. ジェンダー問題について説明したり、ディスカッションすることができる【汎用的技能】 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：授業内容と授業計画、ジェンダーとは？ 2. 女とは？男とは？セクシュアリティとは？ 3. LGBTs（セクシュアリティに関わる問題）① <ol style="list-style-type: none"> (1) 性別違和 4. LGBTs（セクシュアリティに関わる問題）② <ol style="list-style-type: none"> (2) 性的指向 5. LGBTs（セクシュアリティに関わる問題）③ <ol style="list-style-type: none"> (3) SOGIとは？ 6. 女らしさ、男らしさはどのようにつくられるか？ (1) 家庭の中のジェンダー 7. 女らしさ、男らしさはどのようにつくられるか？ (2) 学校の中のジェンダー 8. 日本社会におけるジェンダー：女性が抱える問題① 9. 日本社会におけるジェンダー：女性が抱える問題② 10. 性行動と性意識：現代の若者の実態① 11. 性行動と性意識：現代の若者の実態② 12. ジェンダーにまつわる病 (1) 摂食障害① 13. ジェンダーにまつわる病 (1) 摂食障害② 14. ジェンダーにまつわる病 (2) うつ～自分らしさと女らしさの葛藤～ 15. まとめ、復習テスト 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	ジェンダーをキーワードに日頃からニュースなどに興味を持ち、情報を得ていること。また参考文献などを使って下調べしておくこと（学習時間：2時間）。授業中に配布した資料やプリントを使って復習を行うこと。また、授業内で紹介した参考文献などを活用して理解を深めること（学習時間：2時間）。						
授業方法	基本的に講義形式で進めるが、グループ・ディスカッションやレポートなどの課題をとり入れることにより、自分自身で考える機会を持つ。毎回、授業の最後に、レポートの提出やテストなどの課題を課す。また授業中に意見を求めることも多いので、大勢の前でも発言できる勇気が求められる。						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業で提出するレポートと小テスト 50% ・授業態度・参加度（発言、ディスカッション参加態度）20% ・最終授業で実施する復習テストとレポート 30% <p>★5回以上欠席した場合は評価の対象外とする。</p>						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・大勢の前でも発言できる勇気がある人に限る。 ・授業初回到授業内容と授業計画を説明するので、できる限り、出席すること。 ・私語は厳禁、携帯電話は鞆にしまうなど、ルールを守る人に限る。 ・成績は、数回の小テストや復習テスト、レポートを通じて評価するので、常に予習・復習を怠らず、高得点をとれるよう努力すること。 ・出席点は考慮しないので、出席していれば合格できるということはない。熱心で積極的な受講態度が求められる。 						
教科書	なし						
参考書	「ジェンダーの心理学ハンドブック」青野篤子・赤澤淳子・松並知子、ナカニシヤ出版、2008 「アクティブラーニングで学ぶジェンダー～現代を生きるための12の実践」青野篤子、ミネルヴァ書房、2016 「女性の生きづらさとジェンダー～「片隅」の言葉と向き合う心理学」心理科学研究会ジェンダー部会、有斐閣、2021						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	女性と法						
担当教員	佐藤 祥徳					科目ナンバ-	Z11220
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	現代社会を生きる女性として知っておくことが望ましい法制度を概観する。						
授業の概要	現代社会では、民事事件、刑事事件を問わず、女性が当事者となる紛争やトラブルが日夜発生している。そして、法治国家である日本においては、女性としての権利を実現し、法的利益を守ることを目的とした法律が多数存在する。本授業では、女性が社会生活を送るうえで遭遇し得る様々な場面を取り上げ、これらに関するわが国の法制度を紹介し、様々な法律に対する理解を深めてもらうとともに、社会で活躍する女性になるための「心得」を提供することを目指す。						
到達目標	(1) 社会生活上、女性が当事者となる紛争やトラブルにどのようなものがあるかを理解する【知識・理解】 (2) 上記(1)に関連する法制度(法律)の内容を理解し、他者にわかりやすく説明することができる【汎用的技能】 (3) 上記(1)及び(2)を前提に、これらの紛争やトラブルを未然に回避するためにはどのように行動すればよいかを適切に判断することができる【態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス・法律を学ぶにあたって 第2回 インターネットをめぐる法律問題① (SNS利用時のトラブル) 第3回 インターネットをめぐる法律問題② (著作権侵害、海賊版コンテンツ等) 第4回 男女関係をめぐる法律問題 (交際相手からの暴力、ストーカー行為、リベンジポルノ等) 第5回 女性と犯罪被害① (いじめ、性犯罪、盗撮・痴漢、援助交際等) 第6回 女性と犯罪被害② (警察捜査と刑事裁判に関する基礎知識、不法行為責任と民事裁判に関する基礎知識) 第7回 講義前半のまとめ・中間試験 第8回 職場における法律問題① (労働者の諸権利) 第9回 職場における法律問題② (パワーハラスメント、セクシャルハラスメント等) 第10回 女性と社会経済活動 (契約責任と会社法制に関する基礎知識) 第11回 女性と貧困 (母子家庭を取り巻く諸問題、多重債務、消費者被害) 第12回 家族をめぐる法律問題① (結婚と離婚、不貞行為、配偶者暴力 (DV) 等) 第13回 家族をめぐる法律問題② (親権、面会交流、養育費、認知等) 第14回 家族をめぐる法律問題③ (遺言、相続) 第15回 講義後半のまとめ・期末試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習： 教科書の指定された範囲を予習し、各回授業で取り上げる法律やそれが適用される場面についてのイメージを掴み、わからないことや疑問点があれば拾い出しておく。<2時間> 授業後学習： 授業で取り上げた内容(紛争・トラブルの実態、関連する法律の趣旨・目的、内容等)を復習し、理解を深める。また、新聞記事、テレビ報道、スマートフォンのニュースアプリ等で関連するトピックを見つけた場合は、積極的に情報を収集し、多様な意見に触れるよう努める。<2時間>						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	平常点10%、中間試験35%、期末試験55% 中間試験： 授業で取り上げた法制度に対する理解度(到達目標(1)(2))及び運用力(到達目標(3))を評価する。 期末試験： 中間試験と同様の評価方法によるほか、女性が直面する具体的な社会問題に関して、問題の所在を見出す力(到達目標(1))及び法制度を念頭に置いた具体的な解決方法を考察する力(到達目標(2)(3))を評価する。 課題に対するフィードバックの方法：中間試験及び期末試験の採点結果を松蔭manabaで講評する。						
履修上の注意	法律に関する基礎知識の有無は問わない。 平易な講義に努めるので、安心して履修してほしい。						
教科書	『おとめ六法』上谷さくら・岸本学著、KADOKAWA、ISBN978-4-04-604779-3						

参考書	『マンガでわかる！ わたしの味方になる法律の話』 遠藤研一郎著、大和書房、ISBN978-4-479-39369-6
-----	--

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	女性の身体と健康						
担当教員	西川 央江					科目ナンバ-	Z11110
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	女性の身体の健康についての正しい知識と情報を得て、生涯にわたって、女性の健康を維持増進させていくことについての知識の取得						
授業の概要	女性が生涯にわたって身体の健康を維持増進していくためには、一般的な身体の健康に関する知識を基礎に、女性もつ妊娠・出産という男性と異なる特質についての知識が必要となる。本授業では女性の生涯を通じた健康、さらには次世代の健康な育成について様々な観点から考え、自らの身体の健康状態を観察し、健康維持増進に取り組めるよう知識の取得を目指す。						
到達目標	1. 女性の健康課題について理解を深めることができる【知識・理解】 2. 女性の健康保持と増進に必要な知識・情報について理解を深めることができる【知識・理解】 3. 自分の健康課題を見つけることができ、それに対して具体的な改善方法を考えることができる【汎用的技能】 【態度・志向性】						
授業計画	第1回 女性の健康の概念と基本理念（リプロダクティブ・ヘルス/ライフ） 第2回 生活習慣と女性の健康（①食事・排泄） 第3回 生活習慣と女性の健康（②運動・睡眠） 第4回 生涯を通じた女性の健康（①思春期と月経） 第5回 生涯を通じた女性の健康（②月経に関するトラブル） 第6回 生涯を通じた女性の健康（③妊娠・出産） 第7回 生涯を通じた女性の健康（④避妊・中絶） 第8回 生涯を通じた女性の健康（⑤性感染症予防） 第9回 生涯を通じた女性の健康（⑥子宮頸がん・乳がん・大腸がん） 第10回 生涯を通じた女性の健康（⑦ドメスティックバイオレンスとその対応） 第11回 生涯を通じた女性の健康（⑧性暴力被害とその対応） 第12回 生涯を通じた女性の健康（⑨タバコ・薬物等による健康への影響） 第13回 生涯を通じた女性の健康（⑩女性アスリートの健康） 第14回 生涯を通じた女性の健康（⑪老年期に向けての身体の健康） まとめ試験 第15回 講義全体の学習内容の総復習（身体の年代別課題とメンタルヘルス）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：シラバスを参考に次の講義に関する情報をメディアや文献から得る。そして、自分自身の健康状態を観察し、健康課題を見つける。（学習時間2時間） 授業後学習：講義内容を振り返りまとめる。そして、講義内容ををもとに自分自身の健康を保持増進させる方法を考える（学習時間2時間）						
授業方法	講義：テーマごとに女性の健康について講義を行う。事例紹介時は視覚教材を活用する。テーマに対して、自分の女性としての健康課題を点検し、講義内容を参考に健康増進のために実践することを見出す。						
評価基準と評価方法	まとめ試験60%、授業内での提出物40% まとめ試験：授業で扱った女性としての健康についての課題と保持増進について、理解度を評価する。（到達目標1・2・3に関する到達目標の確認） 授業内での提出物：各回提出のリアクションペーパー（講義についてのコメント・質問・課題への自分の考え）の内容、記述の的確さを評価する。						
履修上の注意	単位認定は出席3分の2以上で行います。自分の健康に関心をもち、より健康になることを目指して健康管理に留意し、出席してください。						
教科書	テキストは指定しない。講義時に資料を配布する。						
参考書	講義時間に随時紹介する。						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	スポーツ実習／（ニュースポーツ）						
担当教員	武村 政徳					科目ナンバ-	Z11126
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1～2	単位数	1.0
授業のテーマ	ニュースポーツを通して体を動かすことの楽しさを知り、生涯に渡って運動を継続できる習慣を身につけよう						
授業の概要	ニュースポーツは、20世紀後半以降に新しく考案されたスポーツで、年齢や体力にかかわらず誰もが楽しめるスポーツとして近年注目されています。この授業では、運動不足解消やレクリエーションの一環として導入されている例も多いニュースポーツを実践していきます。						
到達目標	ニュースポーツの各種目のルールを理解し、仲間と協力してプレーすることができる。【知識・理解】【態度・志向性】 各種目をプレーするために必要な体力を向上することができる。【態度・志向性】 グループのメンバーやクラス（履修者）のメンバーとコミュニケーションがとれる。【汎用的技能】						
授業計画	<p>【実施スポーツ種目予定】</p> <p>第1週～第3週 『フライングディスク①(ドッジビー)』 第4週～第6週 『フライングディスク②』 第7週～第9週 『パターゴルフ』 第10週～第12週 『フロアホッケー』（種目変更の可能性有） 第13週～第15週 『インディアカ』</p> <p>【内容】</p> <p>第1週：ガイダンスとフライングディスク(ドッジビー)の導入 第2週：フライングディスク(ドッジビー)の実践① 第3週：フライングディスク(ドッジビー)の実践② 第4週：フライングディスクの導入 第5週：フライングディスクの実践① 第6週：フライングディスクの実践② 第7週：パターゴルフの導入 第8週：パターゴルフの実践① 第9週：パターゴルフの実践② 第10週：フロアホッケーの導入(種目変更の可能性有) 第11週：フロアホッケーの実践①(種目変更の可能性有) 第12週：フロアホッケーの実践②(種目変更の可能性有) 第13週：インディアカの導入 第14週：インディアカの実践① 第15週：インディアカの実践②</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各種目のルールを授業中に質問するので、答えられるようにしておいて下さい。(学習時間:1時間) 授業後学習：使用される用具やコート、ゴルフ場などの施設について、資料を収集して授業中の質問に答えられるようにしておいて下さい。(学習時間:1時間)						
授業方法	身体運動を伴う実習および演習						
評価基準と評価方法	1) 学習意欲や施設・用具の取り扱い等の平常点 75% 2) 技能の到達度 25% ※ 運動ができる服装（体操服やシューズ）を忘れた場合は減点します。 ※ 欠席回数が5回以上の者は、成績評価の対象と対象としません。						
履修上の注意	・服装に関しては原則的に自由ですが、ジーパンなど運動しにくいものは避け、運動ができる服装で出席してください。 ・靴は体育館では体育館シューズ、屋外では屋外用シューズを使用すること。 ・20分以上の遅刻は欠席扱いとします。(交通機関延着による遅刻は、延着証明書がある場合は遅刻としない) ・遅刻3回で欠席1回とみなします。						
教科書	特になし						
参考書	必要に応じて授業で紹介する。						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	スポーツ実習／スポーツ実習1／（バドミントン）						
担当教員	渡部 将之					科目ナンバ-	Z11121
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1～2	単位数	1.0
授業のテーマ	運動・スポーツに親しみ、生涯スポーツとしてのバドミントンを楽しもう。						
授業の概要	健康・スポーツ科学の理論を生かし安全で効果的な身体運動の実践能力を育成すると共に、バドミントンを通して生涯にわたって運動・スポーツに親しむ資質や能力を取得するために実施します。						
到達目標	(1) バドミントンのゲームのルールを理解し、説明できる【知識・理解】 (2) 技術を習得し、戦術を考えてダブルスゲームを実践できるようになる。【態度・志向性】 (3) 履修者及びペアのメンバーとコミュニケーションがとれる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 フォアハンドストローク（オーバーヘッド、サイドハンド、アンダーハンド）の打ち方 第3回 バックハンドストローク（オーバーヘッド、サイドハンド、アンダーハンド）の打ち方 第4回 サイドバイサイド、トップアンドバックなどの動きの練習 第5回 ダブルスゲームを楽しむ ※相互審判とし、全員でゲームを進める 第6回 ダブルスゲームを楽しむ ※相互審判とし、全員でゲームを進める 第7回 ダブルスゲームを楽しむ ※相互審判とし、全員でゲームを進める 第8回 ダブルスゲームを楽しむ ※相互審判とし、全員でゲームを進める 第9回 ダブルスゲームを楽しむ ※相互審判とし、全員でゲームを進める 第10回 ダブルスゲームを楽しむ ※相互審判とし、全員でゲームを進める 第11回 ダブルスゲームを楽しむ ※相互審判とし、全員でゲームを進める 第12回 ダブルスゲームを楽しむ ※相互審判とし、全員でゲームを進める 第13回 ダブルスゲームを楽しむ ※相互審判とし、全員でゲームを進める 第14回 ダブルスゲームを楽しむ ※相互審判とし、全員でゲームを進める 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：バドミントンのルールを調べ質問に答えられるようにしておいて下さい。（学習時間：1時間） 授業後学習：使用される用具やコート等の資料を収集して質問に答えられるようにしておいて下さい（学習時間：1時間）						
授業方法	身体運動を伴う実習						
評価基準と評価方法	1) 出席および学習に対する意欲点 60% 2) 技術到達、コミュニケーション、施設・用具の取り扱い等の平常点 40% 3) 実技種目なので出席を重要視します。 4) 欠席1.0 遅刻0.5 早退・見学0.25 合計で3.0を超えると単位不認定 遅刻3回で欠席(1.0)と同じとみなします。 ※体操服やシューズを忘れた場合は減点します。						
履修上の注意	1) 運動に適した服装及び体育館シューズを持参して下さい。 2) 実技種目で準備運動が重要なため、準備運動後の出席は欠席扱いとします。 (交通機関の延着による遅刻は、延着証明がある場合は遅刻、欠席としない)						
教科書	特になし						
参考書	特になし						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	スポーツ実習／スポーツ実習1／（バドミントン）						
担当教員	渡部 将之					科目ナンバ-	Z11121
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1～2	単位数	1.0
授業のテーマ	運動・スポーツに親しみ、生涯スポーツとしてのバドミントンを楽しもう。						
授業の概要	健康・スポーツ科学の理論を生かし安全で効果的な身体運動の実践能力を育成すると共に、バドミントンを通して生涯にわたって運動・スポーツに親しむ資質や能力を取得するために実施します。						
到達目標	(1) バドミントンのゲームのルールを理解し、説明できる【知識・理解】 (2) 技術を習得し、戦術を考えてダブルスゲームを実践できるようになる。【態度・志向性】 (3) 履修者及びペアのメンバーとコミュニケーションがとれる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 フォアハンドストローク（オーバーヘッド、サイドハンド、アンダーハンド）の打ち方 第3回 バックハンドストローク（オーバーヘッド、サイドハンド、アンダーハンド）の打ち方 第4回 サイドバイサイド、トップアンドバックなどの動きの練習 第5回 ダブルスゲームを楽しむ ※相互審判とし、全員でゲームを進める 第6回 ダブルスゲームを楽しむ ※相互審判とし、全員でゲームを進める 第7回 ダブルスゲームを楽しむ ※相互審判とし、全員でゲームを進める 第8回 ダブルスゲームを楽しむ ※相互審判とし、全員でゲームを進める 第9回 ダブルスゲームを楽しむ ※相互審判とし、全員でゲームを進める 第10回 ダブルスゲームを楽しむ ※相互審判とし、全員でゲームを進める 第11回 ダブルスゲームを楽しむ ※相互審判とし、全員でゲームを進める 第12回 ダブルスゲームを楽しむ ※相互審判とし、全員でゲームを進める 第13回 ダブルスゲームを楽しむ ※相互審判とし、全員でゲームを進める 第14回 ダブルスゲームを楽しむ ※相互審判とし、全員でゲームを進める 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：バドミントンのルールを調べ質問に答えられるようにしておいて下さい。（学習時間：1時間） 授業後学習：使用される用具やコート等の資料を収集して質問に答えられるようにしておいて下さい（学習時間：1時間）						
授業方法	身体運動を伴う実習						
評価基準と評価方法	1) 出席および学習に対する意欲点 60% 2) 技術到達、コミュニケーション、施設・用具の取り扱い等の平常点 40% 3) 実技種目なので出席を重要視します。 4) 欠席1.0 遅刻0.5 早退・見学0.25 合計で3.0を超えると単位不認定 遅刻3回で欠席(1.0)と同じとみなします。 ※体操服やシューズを忘れた場合は減点します。						
履修上の注意	1) 運動に適した服装及び体育館シューズを持参して下さい。 2) 実技種目で準備運動が重要なため、準備運動後の出席は欠席扱いとします。 (交通機関の延着による遅刻は、延着証明がある場合は遅刻、欠席としない)						
教科書	特になし						
参考書	特になし						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	スポーツ実習／スポーツ実習2／（テニス）						
担当教員	吉川 小百合					科目ナンバ-	Z11122
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1～2	単位数	1.0
授業のテーマ	授業では基本技術の習得、ゲームのルールやテニスのマナーを学び応用技術を実習しゲームが出来るように学習する。 テニスの楽しさや出来る喜びを感じる。						
授業の概要	グラウンドストローク（フォアハンド・バックハンド）、ボレー（フォアハンド・バックハンド）、スマッシュ、サーブの技術の習得。各ショットに適したグリップの説明。シングルス及びダブルスのルールの理解、シングルス、ダブルスのゲームの行い方、テニスのマナーの理解、審判の仕方。						
到達目標	テニスの基本技術と応用技術とルールやテニスのマナーを学び、試合をすることが出来る。【知識・理解】【汎用的技能】【態度・志向性】						
授業計画	<p>第1回 授業の説明・授業のねらい・安全管理・評価方法について説明を行う</p> <p>第2回 ラケットとボールに慣れる（ボールの弾み方、ラケットの長さを覚える）</p> <p>第3回 フォアハンドストローク（グリップとボールの回転の理解・トスボールを打つ）</p> <p>第3回 バックハンドストローク（グリップとボールの回転の理解・トスボールを打つ）</p> <p>フォアハンドストローク復習</p> <p>第4回 グラウンドストローク（ショートラリー・ベースラインラリー）</p> <p>フォアハンドストロークとバックハンドストローク復習</p> <p>第5回 フォアハンドボレー、バックハンドボレー</p> <p>（グリップとボールの回転の理解・トスボールを打つ・ボレーボレー）</p> <p>ストローク復習</p> <p>第6回 サーブ（グリップとボールの回転の理解）・ストローク・ボレー復習</p> <p>第7回 スマッシュ（グリップとボールの回転の理解）ストローク・ボレー・サーブ復習</p> <p>第8回 ストローク・ボレー・サーブ・スマッシュ復習</p> <p>第9回 フットワークの説明・ストローク・ボレー・サーブ・スマッシュ復習</p> <p>第10回 サービス&レシーブ・ストローク・ボレー・サーブ・スマッシュ復習</p> <p>第11回 ルールの説明・ポイントの数え方・サービス&レシーブ復習</p> <p>第12回 シングルのゲーム（2ポイント交代）</p> <p>第13回 シングルのゲーム（2ゲーム先取）</p> <p>第14回 ダブルスのゲーム（4ゲームマッチ）</p> <p>第15回 ダブルスのゲーム（4ゲーム先取）</p>						
	個人の技能に応じてシラバスの内容を変更して指導を行う場合がある。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習：授業計画や授業中に予告した内容をもとに、テニス雑誌やインターネット等を調査し関心を高めておく。（学習時間：1時間）</p> <p>授業後学習：ルールの確認と自らの動きを振り返り、さらにプロテニス選手の動画を視聴して、イメージを持つ。ルールを覚える。（学習時間：1時間）</p>						
授業方法	実技						
評価基準と評価方法	授業への積極的参加度75%（授業への積極的参加度も重視し実技と合わせて総合的に評価する）技術点25%（フォアハンド・バックハンド・ボレー・サーブ・スマッシュ5×5点）						
履修上の注意	<p>テニスシューズを履くことが望ましい。雨天時はテニスコート横の体育館で行うため上履きシューズを持参すること。忘れた場合、見学・レポート提出。</p> <p>*質問は授業前後に受け付けます。</p>						
教科書	特になし						
参考書	特になし						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	スポーツ実習／スポーツ実習3／（ゴルフ）						
担当教員	板谷 昭彦					科目ナンバ-	Z11123
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	1～2	単位数	1.0
授業のテーマ	生涯スポーツとしてのゴルフ技術の習得						
授業の概要	この授業では、大学生に人気の高いスポーツ種目を取り上げ、学んだスポーツを生涯にわたって実践できる力を養成する。スポーツの知識を学び実践することは、人間の身体に対する正しい知識と、日常生活にも通ずる身体の動かし方を習得し、健康への意識と関心を高めることでもある。スポーツの基礎的技術を習得して得られる満足感と、スポーツをすることの純粋な楽しさ・面白さを体全体で体験できるようにすることで、授業外でのスポーツへの取り組みを促していく。そこで生涯スポーツとして人気のあるゴルフの知識及びスイング理論を学び、基本スイング形成・応用スイング形成の手順及び打球の基本技術・応用技術の習得を目指します。また、ゴルフというスポーツを通して健康づくりや体力づくりの基礎的知識を学びます。						
到達目標	<p>(1) ゴルフスイングの理論および基本的なフォームを習得し、その理論を他者にわかりやすく説明することができる。【知識・理解】</p> <p>(2) その理論を理解し、ショートアイアン（9番）、ミドルアイアン（7番）、ロングアイアン（5番）、ウッドクラブ、それぞれのクラブの機能に合ったボールを打つことができる。【汎用的技能】</p> <p>(3) ゴルフの特色を知り、ゴルフへの興味と関心をより具体的なものとして意識することができる。【態度・志向性】</p>						
授業計画	<p>第1回：ガイダンス（授業の進め方、ゴルフ道具の説明）</p> <p>第2回：グリップ（握り方）、アドレス（構え方）、スイングフォームを作る</p> <p>第3回：プラスチックボールでの打球練習でフォームを作る（1）腕の使い方の習得</p> <p>第4回：プラスチックボールでの打球練習でフォームを作る（2）肩の回転の習得</p> <p>第5回：プラスチックボールでの打球練習でフォームを作る（3）体重移動の習得</p> <p>第6回：プラスチックボールでの打球練習でフォームを作る（4）腕、肩、体重移動を連動させたスイングの習得</p> <p>第7回：ショートアイアン（9番）を使って正規のボールでの打球練習（1）ハーフショットの習得</p> <p>第8回：ショートアイアン（9番）を使って正規のボールでの打球練習（2）フルショットの習得</p> <p>第9回：ミドルアイアン（7番）を使って正規のボールでの打球練習（1）ハーフショットの習得</p> <p>第10回：ミドルアイアン（7番）を使って正規のボールでの打球練習（2）フルショットの習得</p> <p>第11回：ロングアイアン（5番）を使って正規のボールでの打球練習（1）ハーフショットの習得</p> <p>第12回：ロングアイアン（5番）を使って正規のボールでの打球練習（2）フルショットの習得</p> <p>第13回：ウッドクラブを使って正規のボールでの打球練習</p> <p>第14回：ショートアイアンを使ってアプローチショットの練習</p> <p>第15回：実技テスト</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習；テレビやビデオでゴルフの試合等を見て、ゴルフに関する知識を深めておいてください。（1時間）</p> <p>授業後学習；授業で取り上げた内容の確認と整理（1時間）</p>						
授業方法	実技						
評価基準と評価方法	<p>1) 学習意欲、取り組みにより総合的に評価する。70%</p> <p>2) 技術の到達度 30%</p> <p>※基本的なフォームを理解し習得できているか。また、使用するクラブの機能通り打つことができているか評価する。</p> <p>※体操服やシューズを忘れた場合は減点します。</p>						
履修上の注意	<p>1) 運動に適した服装で参加すること。ゴルフ用手袋は大学で用意している。授業は、体育館と屋外のゴルフ練習場で行いますので、体育館用シューズと屋外用シューズの両方を準備して下さい。</p> <p>2) 20分以上の遅刻は欠席扱いとします。（交通機関の延着による遅刻は、延着証明がある場合は遅刻としません。）</p> <p>※質問は授業の前後で受け付けます。</p>						
教科書	特になし						
参考書	特になし						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	スポーツ実習／スポーツ実習3／（ゴルフ）						
担当教員	板谷 昭彦					科目ナンバ-	Z11123
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	1～2	単位数	1.0
授業のテーマ	生涯スポーツとしてのゴルフ技術の習得						
授業の概要	この授業では、大学生に人気の高いスポーツ種目を取り上げ、学んだスポーツを生涯にわたって実践できる力を養成する。スポーツの知識を学び実践することは、人間の身体に対する正しい知識と、日常生活にも通ずる身体の動かし方を習得し、健康への意識と関心を高めることでもある。スポーツの基礎的技術を習得して得られる満足感と、スポーツをすることの純粋な楽しさ・面白さを体全体で体験できるようにすることで、授業外でのスポーツへの取り組みを促していく。そこで生涯スポーツとして人気のあるゴルフの知識及びスイング理論を学び、基本スイング形成・応用スイング形成の手順及び打球の基本技術・応用技術の習得を目指します。また、ゴルフというスポーツを通して健康づくりや体力づくりの基礎的知識を学びます。						
到達目標	<p>(1) ゴルフスイングの理論および基本的なフォームを習得し、その理論を他者にわかりやすく説明することができる。【知識・理解】</p> <p>(2) その理論を理解し、ショートアイアン（9番）、ミドルアイアン（7番）、ロングアイアン（5番）、ウッドクラブ、それぞれのクラブの機能に合ったボールを打つことができる。【汎用的技能】</p> <p>(3) ゴルフの特色を知り、ゴルフへの興味と関心をより具体的なものとして意識することができる。【態度・志向性】</p>						
授業計画	<p>第1回：ガイダンス（授業の進め方、ゴルフ道具の説明）</p> <p>第2回：グリップ（握り方）、アドレス（構え方）、スイングフォームを作る</p> <p>第3回：プラスチックボールでの打球練習でフォームを作る（1）腕の使い方の習得</p> <p>第4回：プラスチックボールでの打球練習でフォームを作る（2）肩の回転の習得</p> <p>第5回：プラスチックボールでの打球練習でフォームを作る（3）体重移動の習得</p> <p>第6回：プラスチックボールでの打球練習でフォームを作る（4）腕、肩、体重移動を連動させたスイングの習得</p> <p>第7回：ショートアイアン（9番）を使って正規のボールでの打球練習（1） HALFショットの習得</p> <p>第8回：ショートアイアン（9番）を使って正規のボールでの打球練習（2）フルショットの習得</p> <p>第9回：ミドルアイアン（7番）を使って正規のボールでの打球練習（1） HALFショットの習得</p> <p>第10回：ミドルアイアン（7番）を使って正規のボールでの打球練習（2）フルショットの習得</p> <p>第11回：ロングアイアン（5番）を使って正規のボールでの打球練習（1） HALFショットの習得</p> <p>第12回：ロングアイアン（5番）を使って正規のボールでの打球練習（2）フルショットの習得</p> <p>第13回：ウッドクラブを使って正規のボールでの打球練習</p> <p>第14回：ショートアイアンを使ってアプローチショットの練習</p> <p>第15回：実技テスト</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習；テレビやビデオでゴルフの試合等を見て、ゴルフに関する知識を深めておいてください。（1時間）</p> <p>授業後学習；授業で取り上げた内容の確認と整理（1時間）</p>						
授業方法	実技						
評価基準と評価方法	<p>1) 学習意欲、取り組みにより総合的に評価する。70%</p> <p>2) 技術の到達度 30%</p> <p>※基本的なフォームを理解し習得できているか。また、使用するクラブの機能通り打つことができているか評価する。</p> <p>※体操服やシューズを忘れた場合は減点します。</p>						
履修上の注意	<p>1) 運動に適した服装で参加すること。ゴルフ用手袋は大学で用意している。授業は、体育館と屋外のゴルフ練習場で行いますので、体育館用シューズと屋外用シューズの両方を準備して下さい。</p> <p>2) 20分以上の遅刻は欠席扱いとします。（交通機関の延着による遅刻は、延着証明がある場合は遅刻としません。）</p> <p>※質問は授業の前後で受け付けます。</p>						
教科書	特になし						
参考書	特になし						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	スポーツ実習／スポーツ実習4／（ソフトバレーボール）						
担当教員	武村 政徳					科目ナンバ-	Z11124
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1～2	単位数	1.0
授業のテーマ	ソフトバレーボールを通して体を動かすことの楽しさを知り生涯に渡って運動を継続できる習慣を身につけるとともに、チームスポーツとして仲間と運動・スポーツを楽しむ。						
授業の概要	軟らかい・ソフト化されたボールを用いたソフトバレーボールを行う。 ソフトバレーボールの技術の習得・向上を図る練習と共に、身体運動の実践能力や体力の向上を図る運動も行う。 仲間とコミュニケーションをとり協力し合い楽しさ等を共有できるよう、様々なメンバーとチームを組んでゲームを実践する。						
到達目標	ソフトバレーボールのルールを理解し、仲間と協力してプレーすることができる。【知識・理解】【態度・志向性】 ソフトバレーボールをプレーするために必要な技術・体力を向上することができる。また【態度・志向性】 グループのメンバーやクラス(履修者)のメンバーとコミュニケーションがとれる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 ガイダンスと体力測定 第2回 パスの基本技術とゲーム(1) [オーバーハンドパス、アンダーハンドパス] 第3回 パスの基本技術とゲーム(2) [オーバーハンドパス、アンダーハンドパス] 第4回 パスの基本技術・サービスの基本技術とゲーム(1) [アンダーハンド・フローターサーブ] 第5回 パスの基本技術・サービスの基本技術とゲーム(2) [アンダーハンド・フローターサーブ] 第6回 スパイクの基本技術・ブロックの基本技術とゲーム(1) 第7回 スパイクの基本技術・ブロックの基本技術とゲーム(2) 第8回 レシーブ・三段攻撃とゲーム 第9回 三段攻撃パターンとゲーム(1) 第10回 三段攻撃パターンとゲーム(2) 第11回 ゲームを楽しむ(リーグ戦①) 第12回 ゲームを楽しむ(リーグ戦②) 第13回 ゲームを楽しむ(リーグ戦③) 第14回 ゲームを楽しむ(リーグ戦④) 第15回 ゲームを楽しむ(リーグ戦⑤)とまとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：ソフトバレーボールのルールを授業中に質問するので、答えられるようにしておいて下さい。(学習時間:1時間) 授業後学習：使用される用具やコートなどの施設について、資料を収集して授業中の質問に答えられるようにしておいて下さい。(学習時間:1時間)						
授業方法	身体運動を伴う実習および演習						
評価基準と評価方法	1) 学習意欲や施設・用具の取り扱い等の平常点 75% 2) 技能の到達度 25% ※ 運動ができる服装(体操服やシューズ)を忘れた場合は減点します。 ※ 欠席回数が5回以上の者は、成績評価の対象と対象としません。						
履修上の注意	・初回授業もガイダンス後に実技(運動)を行います。更衣・シューズを準備してください。 ・服装に関しては原則的に自由ですが、ジーンズなど運動しにくいものは避け、運動ができる服装で出席してください。 ・靴は体育館(室内)シューズを使用すること。 ・20分以上の遅刻は欠席扱いとします。(交通機関延着による遅刻は、延着証明書がある場合は遅刻としない) ・遅刻3回で欠席1回とみなします。						
教科書	特になし						
参考書	特になし						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	スポーツ実習／スポーツ実習6／（フィットネス）						
担当教員	益富 真子					科目ナンバ-	Z11125
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	1～2	単位数	1.0
授業のテーマ	フィットネス（健康のために行う運動）についての理論と実践						
授業の概要	フィットネスという言葉の解釈は、元々の「適合」を含め「健康であること」や「健康のための運動」等々々であるが、ここでは健康のために行う運動として捉える。この授業では、ストレッチ、有酸素運動、各種筋力トレーニングやヨガ、ピラティス等、様々な運動を組み合わせた形で行い、生涯にわたってスポーツを実践できる力を養成する。身体に関する幅広い知識を学び実践することは健康への意識と関心を高めることでもある。多面から基礎を学び、スポーツ全般に対する楽しさ・面白さを身体全体で体験することで、授業外でのスポーツへの取り組みを促していく。						
到達目標	自身の体力に合わせて積極的に参加することができる。【態度・志向性】 様々な動きの意味と効果を理解することができる。【知識・理解】 身体の使い方を意識して運動を実施することができる。【態度・志向性】 色々な部位の鍛え方や、ほぐし方を考えることができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 フィットネスとは 自分の身体を知る ピラティス呼吸法 第3回 ストレッチ・ショートエアロ（初心者向け） 筋力トレーニング（腹部） 第4回 ストレッチ・ショートエアロ（初心者向け） ピラティス（呼吸法・基本動作） 第5回 ストレッチ・ショートエアロ（初心者向け） ピラティス（呼吸法・腹部） 第6回 ストレッチ・ショートエアロ（初心者向け） 筋力トレーニング（腰） 第7回 ストレッチ・ショートエアロ（中級） ピラティス（呼吸法・背部） 第8回 ストレッチ・ショートエアロ（中級） 筋力トレーニング（胸部） 第9回 ストレッチ・ショートエアロ（中級） ピラティス（呼吸法・脚） 第10回 ストレッチ・ショートエアロ（中級） 筋力トレーニング（殿部） 第11回 ストレッチ・ショートエアロ（中級） ピラティス（呼吸法・背部 発展形） 第12回 ストレッチ・ショートエアロ（上級） 筋力トレーニング（腕） 第13回 ストレッチ・ショートエアロ（上級） ピラティス 第14回 ストレッチ・ショートエアロ（上級） 筋力トレーニング 第15回 実技まとめ ※各回において状況に応じた内容変更の可能性あり						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業計画をふまえ、各自必要と思われるストレッチやコアを鍛えるためのトレーニング、呼吸法などを実践しておく。（学習時間：1時間） 授業後学習：実践した授業内容をもとに、各自さらに必要と思われるトレーニングを行い、次に備える。（学習時間：1時間）						
授業方法	実技と講義						
評価基準と評価方法	平常点80%、理解度20% プリント記入内容を含め受講態度を重視し評価する。 体操服やシューズを忘れた場合などは減点する。 できるかできないかではなく、積極的に取り組んでいるかを動きながらチェックする。 出席回数が開講日数の2/3に満たないものには、原則単位認定を行わない。						
履修上の注意	運動に適した服装、および体育館シューズを持参のうえ受講すること。 ※質問は授業の前後で受け付ける。						

教科書	特になし
参考書	特になし

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	スポーツ実習／スポーツ実習6／（フィットネス）						
担当教員	益富 真子					科目ナンバ-	Z11125
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1～2	単位数	1.0
授業のテーマ	フィットネス（健康のために行う運動）についての理論と実践						
授業の概要	フィットネスという言葉の解釈は、元々の「適合」を含め「健康であること」や「健康のための運動」等々々であるが、ここでは健康のために行う運動として捉える。この授業では、ストレッチ、有酸素運動、各種筋力トレーニングやヨガ、ピラティス等、様々な運動を組み合わせた形で行い、生涯にわたってスポーツを実践できる力を養成する。身体に関する幅広い知識を学び実践することは健康への意識と関心を高めることでもある。多面から基礎を学び、スポーツ全般に対する楽しさ・面白さを身体全体で体験することで、授業外でのスポーツへの取り組みを促していく。						
到達目標	自身の体力に合わせて積極的に参加することができる。【態度・志向性】 様々な動きの意味と効果を理解することができる。【知識・理解】 身体の使い方を意識して運動を実施することができる。【態度・志向性】 色々な部位の鍛え方や、ほぐし方を考えることができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 フィットネスとは 自分の身体を知る ピラティス呼吸法 第3回 ストレッチ・ショートエアロ（初心者向け） 筋力トレーニング（腹部） 第4回 ストレッチ・ショートエアロ（初心者向け） ピラティス（呼吸法・基本動作） 第5回 ストレッチ・ショートエアロ（初心者向け） ピラティス（呼吸法・腹部） 第6回 ストレッチ・ショートエアロ（初心者向け） 筋力トレーニング（腰） 第7回 ストレッチ・ショートエアロ（中級） ピラティス（呼吸法・背部） 第8回 ストレッチ・ショートエアロ（中級） 筋力トレーニング（胸部） 第9回 ストレッチ・ショートエアロ（中級） ピラティス（呼吸法・脚） 第10回 ストレッチ・ショートエアロ（中級） 筋力トレーニング（殿部） 第11回 ストレッチ・ショートエアロ（中級） ピラティス（呼吸法・背部 発展形） 第12回 ストレッチ・ショートエアロ（上級） 筋力トレーニング（腕） 第13回 ストレッチ・ショートエアロ（上級） ピラティス 第14回 ストレッチ・ショートエアロ（上級） 筋力トレーニング 第15回 実技まとめ ※各回において状況に応じた内容変更の可能性あり						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業計画をふまえ、各自必要と思われるストレッチやコアを鍛えるためのトレーニング、呼吸法などを実践しておく。（学習時間：1時間） 授業後学習：実践した授業内容をもとに、各自さらに必要と思われるトレーニングを行い、次に備える。（学習時間：1時間）						
授業方法	実技と講義						
評価基準と評価方法	平常点80%、理解度20% プリント記入内容を含め受講態度を重視し評価する。 体操服やシューズを忘れた場合などは減点する。 できるかできないかではなく、積極的に取り組んでいるかを動きながらチェックする。 出席回数が開講日数の2/3に満たないものには、原則単位認定を行わない。						
履修上の注意	運動に適した服装、および体育館シューズを持参のうえ受講すること。 ※質問は授業の前後で受け付ける。						

教科書	特になし
参考書	特になし

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	聖書学入門						
担当教員	宮田 玲					科目ナンバ-	Z12030
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	旧約聖書と新約聖書を読む						
授業の概要	聖書はキリスト教の正典であり、キリスト教に向き合うには欠かせません。内容を断片的に知っている人は多いと思いますが、あらためて読むといろいろなことに気付かされます。また、全体的な構造や流れを理解すればより深い読みにつながります。授業では、旧約聖書と新約聖書からいくつかのおもな物語を取り上げて読みすすめていきます。時代や文化的な背景はその都度紹介します。書かれていることの意味をしっかりと考えることで、ひいては、キリスト教の思想や価値観、人生観についての洞察を得ることを目指します。						
到達目標	(1) 聖書の成り立ちや主要な文書に関する基本的な物語構造を説明することができる。【知識・理解】 (2) 旧約聖書と新約聖書およびキリスト教を関連づけることができる。【知識・理解】 (3) 聖書の諸文書の執筆意図や背景について、主体的に調べ、読み解くことができる。【態度・指向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス、新約聖書と旧約聖書 第2回 聖書の舞台 第3回 旧約聖書の時代と成り立ち 第4回 旧約物語 (1) アダムとイブの物語 第5回 旧約物語 (2) カインとアベルの物語 第6回 旧約物語 (3) ノアの洪水＝ミニテスト＝ 第7回 旧約物語 (4) アブラハムの物語、 第8回 旧約物語 (5) モーセと出エジプト、十戒 第9回 新約聖書の時代、四福音書とは 第10回 新約物語 (6) イエス・キリストの誕生 第11回 新約物語 (7) 奇跡物語、たとえ話 第12回 新約物語 (8) 十字架、受難＝ミニテスト＝ 第13回 新約物語 (9) 復活 第14回 新約物語 (10) パウロ 第15回 まとめ、私たちにとっての聖書とは、質疑応答と学期末評価						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：次回扱う指定箇所を読み、前回の授業との関連性を予習してきてください。(2時間) 授業後学習：その回の授業テーマとキーワードについて要点を文章にまとめてください。(2時間)						
授業方法	講義 授業で取り上げるテーマにしたがって、受講生の意見を求め、それに対するフィードバックを行ないながら聖書を読みすすめます。						
評価基準と評価方法	学期末評価 60%：基本的な用語の確認と、聖書をどのように読めるかという二点を中心として、授業で学んだことの理解度を評価します。 平常点 40%：授業後にコメントを提出してもらいます。また、授業での聖書箇所朗読とミニテスト2回を加味します。 テストの詳細は授業中およびmanabaで伝えます。						
履修上の注意	11回以上の出席を求めます。						
教科書	資料を毎回配布します。出席者のみ受け取ることができます。 聖書を持っている場合には持参してください。購入する場合は、日本聖書協会『聖書協会共同訳聖書』もしくは『新共同訳聖書』を推奨します。						
参考書	授業内で関連参考図書を紹介します。 並木浩一・荒井章三(編)『旧約聖書を学ぶ人のために』世界思想社 2012年 ISBN:978-4790715566 石川立・中村信博・越後屋朗(編)『聖書語りの風景』キリスト新聞社 2006年 ISBN:978-4873954762 廣石望『NHK宗教の時間 新約聖書のイエス 福音書を読む(上)』NHK出版 2019年 ISBN:978-4149110042 廣石望『NHK宗教の時間 新約聖書のイエス 福音書を読む(下)』NHK出版 2019年 ISBN:978-4149110059						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	ダイバーシティ演習						
担当教員	稲見 直子					科目ナンバ-	Z11160
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	本学の教育目標の一つである「多様性の理解と受容」について考え、人種、国籍、生活習慣、肌の色、宗教、信条などが異なる人々を価値ある存在として理解し、共に向き合う態度を養う。						
授業の概要	この授業では、民族・文化の多様性を学ぶとともに、民族や文化、特にマイノリティに対する偏見・差別の現状、法的・政策的対応などを自ら調べて発表し、社会的理解を進めともに生きていく方法や施策を議論を通して考えていく。						
到達目標	(1) 民族・文化の多様性に関する概念や問題と日本社会の現状を把握することができる。【知識・理解】 (2) 民族・文化に関する法や政策の問題点を調べて発表することができる。【汎用的能力】 (3) 民族・文化の多様性を身近な問題として考え、共に向き合う態度と社会的包含を求める姿勢を身につける。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 マイノリティ問題を考える 第2回 自分の問題関心を考える ※PC必携 第3回 マイノリティ差別の現状を調べる(1) 統計データの検索 ※PC必携 第4回 マイノリティ差別の現状を調べる(2) 文献資料の検索 ※PC必携 第5回 マイノリティ差別の現状を調べる(3) 内容整理 ※PC必携 第6回 中間報告の準備 ※PC必携 第7回 中間報告と質疑応答(1) 第8回 中間報告と質疑応答(2) 第9回 共生のための方策を考える(1) 法・政策の調査 ※PC必携 第10回 共生のための方策を考える(2) 法・政策の検討 ※PC必携 第11回 共生のための方策を考える(3) 内容整理 ※PC必携 第12回 最終報告準備 ※PC必携 第13回 最終報告(1) 第14回 最終報告(2) 第15回 まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：各回の授業で扱うテーマに関する新聞記事を探して読み、下調べをする。<2時間> 授業後学習：各回の課題についてグループで集まって仕上げる。<2時間>						
授業方法	グループワークを中心とした演習形式で進め、各グループでテーマに沿った情報やデータを収集してまとめ、報告する。<BYOD対象科目>						
評価基準と評価方法	・ 授業への参加態度 (15%)：授業に主体的・協働的に取り組んでいるかなどを総合的に評価。到達目標(3)に対応。 ・ 各種レポート (30%)：課題に応じた内容で、分析的かつ論理的に書かれているかを総合的に評価。到達目標(1)の確認。 ・ 中間報告 (25%)：マイノリティ差別の現状をデータに基づいて読み解き、報告できているかを評価。到達目標(1)(2)の確認。 ・ 最終報告 (30%)：マイノリティへの政策やその課題を調べ、共生のための方策を提案できているかを評価。到達目標(1)(2)の確認。						
履修上の注意	・ 出席回数が全体の3分の2に満たない者は原則単位認定は行わない。 ・ 20分以上の遅刻は欠席とみなし、遅刻3回で欠席1回とする。 ・ 「ダイバーシティ入門」を履修していることが望ましい。						
教科書	授業内容に応じて、適宜レジメと資料を配布する。						
参考書	西原和久・杉本学編, 2021, 『マイノリティ問題から考える社会学・入門——差別をこえるために』有斐閣.						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	ダイバーシティ入門						
担当教員	松並 知子					科目ナンバ-	Z11150
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	ダイバーシティの実現とは、女性、外国人、障がい者、シニア、LGBTsなど多様な人材が能力を十分に発揮し、活躍できる環境をつくることである。この授業では、ダイバーシティに関する概念や理論を理解し、その実現について考察する						
授業の概要	ダイバーシティに関する理論や歴史的背景、その重要性について理解する。またその実現を阻む偏見や差別が生じるメカニズムについて考察する。さらに、社会状況や具体例、SOGIについて学び、ダイバーシティを実現するための方法や施策について考える。						
到達目標	(1) ダイバーシティの概念や理論、またダイバーシティが重要性を持つようになった歴史的背景を理解できる。【知識・理解】 (2) 多様な人々を価値ある存在として認め、すべての人々の社会的包含とエンパワーメントを求める姿勢を身につけている。【態度・志向性】						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション：授業内容と授業計画、ダイバーシティとは？ ダイバーシティが重要なのはなぜか？ 血液型占いはなぜ信じられているのか？ (1) 対人認知とステレオタイプ 血液型占いはなぜ信じられているのか？ (2) ステレオタイプと偏見・差別 偏見や差別はどこから生じるのか？ 日本社会におけるダイバーシティ (1) 国籍や人種に関する多様性 日本社会におけるダイバーシティ (2) 女性・母親をめぐる問題 日本社会におけるダイバーシティ (3) 障がいに関する問題 SOGI：ジェンダー・アイデンティティとセクシュアル・オリエンテーション <ol style="list-style-type: none"> 性別とは何か？ SOGI：ジェンダー・アイデンティティとセクシュアル・オリエンテーション <ol style="list-style-type: none"> 性自認 SOGI：ジェンダー・アイデンティティとセクシュアル・オリエンテーション <ol style="list-style-type: none"> 性的指向 なぜ日本のダイバーシティは進まないのか？ 日本でダイバーシティを実現するために 日常生活におけるカウンセリング的対応 まとめと復習テスト 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	ダイバーシティをキーワードに日頃からニュースなどに興味を持ち、情報を得ていること。また参考文献などを使って下調べをしておくこと（学習時間：2時間）。授業中に配布した資料やプリントを使って復習を行うこと。また、授業内で紹介した参考文献などを活用して理解を深めること（学習時間：2時間）。						
授業方法	基本的に講義形式で進めるが、グループ・ディスカッションやレポートなどの課題をとり入れることにより、自分自身で考える機会を持つ。毎回、授業の最後に、レポートの提出やテストなどの課題を課す。また授業中に意見を求めることも多いので、大勢の前でも発言できる勇気が求められる。						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 毎回の授業で提出するレポートと小テスト 50% 授業態度・参加度（発言、ディスカッション参加態度） 20% 最終授業で実施する復習テストとレポート 30% <p>★5回以上欠席した場合は評価の対象外とする。</p>						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> 大勢の前でも発言できる勇気がある人に限る。 授業初回到授業内容と授業計画を説明するので、できる限り、出席すること。 私語は厳禁、携帯電話は鞆にしまうなど、ルールを守る人に限る。 成績は、数回の小テストや復習テスト、レポートを通じて評価するので、常に予習・復習を怠らず、高得点をとれるよう努力すること。 出席点は考慮しないので、出席していれば合格できるということはない。熱心で積極的な受講態度が求められる。 						
教科書	なし						
参考書	青野篤子・田口久美子・沼田あや子・五十嵐元子編著『女性の生きづらさとジェンダー～「片隅」の言葉と向き合う心理学～』有斐閣、2021 土井伊都子編著「学びを人生へつなげる家族心理学」保育出版、2017 水無田気流「多様な社会はなぜ難しいか～日本の「ダイバーシティ進化論」」日本経済出版、2021						

参考書	
-----	--

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	哲学						
担当教員	木下 昌巳					科目ナンバ-	Z11250
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	哲学とは、私たちが日常抱えている常識を突き抜け、世界と人間に対して全体的かつ根源的な認識を獲得しようとする学問である。究極的な意味において世界は何から成り立っているのか？私たち人間は、何をどこまで知ることができるのか？そして、その世界のなかで、私たちはどのように生きていけばよいのか？このような問いに正面から取り組み、可能な限りその解答を得ようとするのが哲学である。この授業では、哲学という学問を初めて学ぶ人に対して古代ギリシアと近世ヨーロッパの主要な哲学者の思想を取り上げ解説する。そして哲学という学問の問題意識と代表的な思想家の思想を学ぶことによって、論理的・抽象的思考の能力を養うことを目指す。						
授業の概要	この授業では、前半では西洋において哲学的思考が誕生した紀元前5世紀から4世紀の古代ギリシアの哲学者の思想を、後半では西洋における哲学的思考の最盛期と言える17世紀から19世紀の重要な哲学者の思想を年代順に取り上げながら、彼らの問題意識と思想内容を解説する。さらに、授業のテーマごとにそれと関連するさまざまな現代的なトピックを取り上げながら、現代における哲学的思想の必要性をあきらかにする。						
到達目標	1. 主要な哲学者の思想を理解することを通じて、哲学という学問の問題意識と思考方法の理解できる。【知識・理解】 2. 過去の哲学者の考え方の道筋を理解することによって、それを通じてあらゆる学問の基礎となるような理論的・抽象的な思考方法を身につけることができるようにする。【汎用性技能】 3. 哲学とは、難解な専門用語や哲学者の名前や著作名を暗記することではない。生きていくなかで直面するさまざまな問題に対して、常識や先入観によって答えを決めつけるのではなく、そこで問題になっていることを自分の頭で自律的に考える態度を身につけ、それを他者にも理解できような仕方での自分の言葉で説明できるようにする。【態度・指向性】						
授業計画	<p>【哲学とは何か】</p> <p>01 「哲学」とは何か？－「知を愛する」という営み</p> <p>【古代ギリシアの哲学】</p> <p>02 「哲学」の始まり－古代ギリシアと哲学</p> <p>03 万物の始源を求めて－ミレトス派の問い</p> <p>04 アキレスと亀－エレア派の思想</p> <p>05 「よく生きる」ために－ソクラテスの生き方</p> <p>06 プラトンのイデア論</p> <p>07 「万学の祖」－アリストテレス</p> <p>08 アリストテレスの倫理学－「中庸」の思想</p> <p>【ヨーロッパ近代の哲学】</p> <p>09 デカルトの哲学1－「私は考える。ゆえに私は存在する。」</p> <p>10 デカルトの哲学2－心身二元論と唯物論</p> <p>11 ロックの経験論－生得観念とタブラ・ラサ</p> <p>12 ヒュームの経験論－因果律の否定</p> <p>13 ニーチェの思想1－道德の系譜学</p> <p>14 ニーチェの思想2－貴族道德と奴隷道德</p> <p>15 21世紀の哲学的課題</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回講義前に授業回該当するテキストの章を熟読しておくこと。（学習時間：2時間） 授業後学習：松蔭manabaを用いた小テストに取り組む。 授業で使用するPowerPointのファイルは授業前にmanabaにアップロードするので、各自ダウンロードして活用すること。（学習時間：2時間）						
授業方法	パワーポイントを用いて講義をおこなう。 毎回の授業で、授業内容についての理解を問う小テストをmanabaから課する。						
評価基準と評価方法	1. 授業毎の小テストは全体で30点満点、授業全体の終了時のレポート70点満点として総合的に評価する。 2. レポートの書き方の詳細については授業内で説明する。						
履修上の注意	1. 授業回数15回中、3分の1以上の欠席者は原則単位を認定しない。 2. 20分以上の遅刻は欠席扱いとする。 3. レポート未提出者は単位認定を認めない。						
教科書	『物語 哲学の歴史 - 自分と世界を考えるために』、伊藤邦武、中央公論新社、ISBN:978-4121021878						
参考書	『哲学の歴史』全13巻（中央公論新社、2007-2008）ISBN:978-4124035186 他 現在、日本で出版されているもっとも詳しい哲学史。内容は細かいが、授業で取り上げた哲学者とその思想について、さまざまな知識を得ることができる。						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	パイプオルガン入門I／パイプオルガン入門A						
担当教員	伊藤 純子					科目ナンバ-	Z11080
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	パイプオルガンへのアプローチ ～楽器、礼拝、音楽の視点から～						
授業の概要	<p>「パイプオルガンへ多角的に近づく」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パイプオルガンという楽器について、ルーツと発音の仕組み、歴史や国ごとの違いを学ぶ ・礼拝について、また礼拝と音楽との関係性および歴史について、概略を学ぶ ・オルガンで美しい音を鳴らす工夫と、聖歌を伴奏する体験をする <p>* 以上について、知識だけではなく、視覚的・聴覚的・身体的体験からの習得の機会とする</p>						
到達目標	<p>①パイプオルガンという楽器について知ることができる 1、しくみ 2、オルガンの歴史 3、オルガン音楽のレパートリー【知識・理解】</p> <p>②礼拝について知ることができる 1、礼拝と歌・オルガンとの関係 2、教会暦とその音楽【知識・理解】</p> <p>③上記①②により「パイプオルガンは息の楽器であり、礼拝と共に歩んできた」ことを習得した上で、実際に聖歌を歌い、美しい伴奏（ソプラノ声部とバス声部の二声）を行うことができる</p> <p>④上記①～③の習得は、オルガン入門Bおよびパイプオルガン実習1における四声体聖歌とコーラル演奏のための導入となる</p>						
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション 第2回：【楽器1】「ルーツと仕組み」パイプオルガンの三大要素について、楽器内部の見学 第3回：【楽器2】「笛について」様々な笛の観察と、それらの特色や違いについて</p> <p>第4回：【楽器3】「オルガンのスタイル」国ごとのオルガンの特色や歴史と、そのスタイル 第5回：【楽器4】「音楽史」オルガン音楽のレパートリーの、音楽史上での位置づけについて 第6回：【演奏1】「オルガンを鳴らす」美しい音を鳴らすためのタッチの基本 第7回：【演奏2】「応用」基本タッチの応用</p> <p>第8回：【礼拝1】「礼拝とは」ミサの起源、様々な礼拝について 第9回：【礼拝2】「礼拝における音楽」古代からグレゴリオ聖歌、現代の聖歌集まで 第10回：【演奏3】「二声での奏楽1」第6回、第7回の体験をもとにオルガンで奏楽 第11回：【演奏4】「二声での奏楽2」各自の練習の成果をもとにオルガンで奏楽</p> <p>第12回：【礼拝3】「教会暦」クリスマス、受難節、イースターについてとその音楽 第13回：【礼拝4】「コーラル」ルターの宗教改革からバッハのカンタータまで 第14回：【演奏5】「実技試験」に向けた準備 第15回：試験とまとめ <実技試験>オルガンで聖歌を二声もしくは四声で伴奏 <筆記試験>講義内容について</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：授業で扱う課題曲についてまず丁寧に読譜し、個人練習を行う（学習時間：1-2時間／1週間） 授業後学習：授業での学びを振り返り、曲の成立や背景について考察し、演奏に反映できるように準備する 次の授業までの間の自主練習時間を利用して、個人練習を行う（学習時間：1-2時間／1週間）</p>						
授業方法	<p>授業形態・授業方法： 講義形式の解説、音楽や映像の鑑賞、学生による実習 毎回の後半では、実技を中心に進める 教室にある小型オルガンを中心に、グルーブレッスンと個人練習を行う</p>						
評価基準と評価方法	<p>平常点（内容：授業に臨む態度）60%、レポート20%、試験20% レポート提出1～2回、試験</p>						
履修上の注意	<p>主に、教室にある小型オルガンを使用する 次の授業までの間に、各自で個人練習を必ず行うこと 手指の爪に関して、短く切り揃えた上で授業に臨むこと 凹凸のあるネイルは禁止とする</p> <p>履修希望者多数の場合は、受講をお断りする可能性がある 鍵盤楽器経験者が望ましい</p>						

履修上の注意	最終回の試験受験のためには、全体の3分の2以上の出席が必要である
教科書	特になし（授業時にプリントを配布）
参考書	金澤正剛 著「キリスト教と音楽」＜音楽之友社＞ 大塚直哉 編「クラヴィス～むかしの鍵盤楽器を弾いてみよう～」現代ギター社 日本聖公会 聖歌集

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	パイプオルガン入門II／パイプオルガン入門B						
担当教員	上野 静江					科目ナンバ-	Z11090
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	パイプオルガンを弾いてみよう（入門）						
授業の概要	学内にあるパイプオルガンを用い、楽器の構造、歴史、様式を踏まえた上で、演奏に必要な基礎的知識、技術を学ぶ。パイプを美しく鳴らすための基本的な奏法からはじめ、聖歌、さらに聖歌に基づく平易な小品を取りあげる。						
到達目標	1) パイプオルガンを演奏するための基礎的な技術を身につけることができる。【知識・理解】 2) 聖歌集について、その内容や成立の背景、教会歴に基づく分類、使い方をすることができる。【知識・理解】 3) 聖歌を歌詞や旋律の持つ意味を体現しつつ歌いやすく奏楽できるようになる。【汎用的技能】 4) 聖歌に基づく平易なオルガン作品を演奏できるようになる。【汎用的技能】 5) 松蔭のオルガンについて、その特徴、概要を知ることができる。【知識・理解】						
授業計画	A. 導入 第1回 オリエンテーション 第2回 パイプオルガンについての基礎知識 第3回 松蔭のオルガンの概要とその特徴ある響きについて B. オルガン演奏の基礎 第4回 オルガン奏法の基礎（1）姿勢・呼吸 第5回 オルガン奏法の基礎（2）タッチ・アーティキュレーション 第6回 聖歌について 第7回 聖歌を弾く（1）旋律と歌詞 第8回 聖歌を弾く（2）和声 第9回 聖歌を弾く（3）呼吸を活かす *後期は、クリスマスの聖歌を中心に取り上げる C. 聖歌に基づくオルガン作品 第10回 コラール前奏曲について 第11回 コラール前奏曲を弾く（1）曲の構造 第12回 コラール前奏曲を弾く（2）音色の工夫 D. まとめ 第13回 クラス内発表会の準備（1）音色の組み合わせ 第14回 クラス内発表会の準備（2）演奏を客観的に捉える訓練 第15回 クラス内発表会（期末試験を兼ねる）とその講評 *学期中に取り組んだ曲の中から聖歌と聖歌に基づく前奏曲を1曲ずつ選び演奏する						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	【授業前準備学習】 授業で扱う課題曲について丁寧に読譜し、その成立や背景についても配布資料等で下調べをする。（学習時間：2時間） 【授業後学習】 授業における指摘事項を振り返り、演奏に反映できるように準備する。（学習時間：1時間） ・読譜や練習の方法、曲への取り組み方については、授業内で詳しく指示します。 ・練習には学内にある練習用オルガンを活用して下さい。						
授業方法	講義および実技。 毎回のテーマ、楽曲についての解説を加えながら、受講者がテーマに応じた課題をパイプオルガンで演奏する、グループプレッスン形式。						
評価基準と評価方法	・毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価（50%） ・レポートおよび授業内での提出物（20%）期末試験（30%）						
履修上の注意	・鍵盤楽器の経験があることが望ましい。 ・履修に際しての注意事項、約束ごとは、初回授業時にプリントで配布する。						

履修上の注意	<ul style="list-style-type: none">・よく練習して臨むこと。・出席が開講日数の3分の2に満たない場合、原則単位認定は行わない。
教科書	<ul style="list-style-type: none">・その都度、プリントを配布。 この授業用に一冊ファイルを用意して保管し、毎回すぐに取り出せるようにしておいて下さい。・楽曲に関しては、各人に応じた課題を授業中に紹介する。
参考書	<ul style="list-style-type: none">・『クラヴィス』大塚直哉編 ISBN978-4-87471-557-4・聖歌集（日本聖公会）

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	文化人類学						
担当教員	鈴木 亜望					科目ナンバ-	Z12170
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	文化人類学を教養として学ぶことで、自分たちの文化を相対化しよう。						
授業の概要	本講義では、文化人類学の古典的な民族誌を紹介しながら、非西洋社会の親族構造、婚姻体系、集団形成、男女の性役割などについて学んでいく。異文化の他者について学ぶことは、異文化理解に役立つだけでなく、自文化の中で「あたりまえ」と思い込んでいる諸概念を他者の視点からとらえる客観性を養うことでもある。特に授業では、西洋中心主義的な思考に傾倒しがちな私たち自身を批判的に考察していく。これによって「西洋的思考／非西洋的思考」という単純な二項対立図式に陥ることのない思考を身につけていく。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・文化人類学の基本的な概念について説明することができる。【知識・理解】 ・異文化の事例について、事象の背景と文脈を踏まえて論理的な考察ができる。【知識・理解】 ・自らが持つ周囲の世界に対する「当たり前」に疑問を投げかけ、これまでとは異なる視点で他者に対する想像力を働かせることができる。【態度・志向性】 						
授業計画	第1回 ガイダンス：「文化」とは何か？ 第2回 文化人類学のもの見方：自文化中心主義を乗り越える 第3回 文化人類学の方法論：民族誌を通じた異文化理解 第4回 民族誌の意義と応用 第5回 個人と社会：さまざまな「わたし」のあり方 第6回 家族の多様性：生殖、親子、結婚 第7回 家族を超えたつながり 第8回 国家と民族 第9回 人の一生と通過儀礼 第10回 通過儀礼の構造 第11回 ジェンダーとは何か 第12回 ライフサイクルとジェンダー 第13回 ジェンダー役割 第14回 ジェンダーと仕事 第15回 全体のまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事後学習：講義資料の振り返り、コメントをmanabaから提出する<2時間> 参考文献を読む<2時間>						
授業方法	講義：コメントや講義内容に関してディスカッションを行うことがある。						
評価基準と評価方法	平常点（コメントペーパー）45% 期末レポート 55%						
履修上の注意	20分以上の遅刻は、欠席とみなす。 講義を受けた上でコメントペーパーを提出すること。不正が発覚した場合は評価の対象としない。						
教科書	指定しない。						
参考書	1. 梅屋潔 シンジルト 編 2017 『新版 文化人類学のレッスン フィールドからの出発』 学陽書房 2. 波平恵美子編 2021 『文化人類学カレッジ版（第4版）』 医学書院 その他講義中に適宜紹介する。						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	ボランティア体験						
担当教員	木鎌 耕一郎					科目ナンバー	Z12190
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	2～3	単位数	1.0
授業のテーマ	ボランティアの学びと体験						
授業の概要	ボランティアに関する基礎知識を学び、実践する目的を自覚し、注意すべき点を理解した上でボランティアの実践を行う。他者とともに生きることと自分が果たせる役割を考えながら責任をもって実践し、感じた経験、問題点を報告しながら実践を改善していく。実践後に自身の体験と得られたものを言語化してまとめることで、経験を内在化する。						
到達目標	(1) ボランティアに関する基礎知識、実践する目的、注意すべき点を理解できる。【知識・理解】 (2) ボランティア実践の基礎知識を現場の状況に即して生かして改善し、自身の経験を他者に伝えることができる。【汎用的技能】 (3) 多様な人たちを価値ある存在として認め、他者への思いやりと社会に貢献する姿勢を身につけている。【態度・志向性】						
授業計画	<p>第1回（4月13日） オリエンテーション（授業の目標・進め方・評価方法等を理解する）</p> <p>【事前指導】 1回目（4月27日） ボランティアの基礎知識・実践の目的・注意事項 2回目（4月27日） ボランティアの種類・探し方</p> <p>【ボランティア体験】 指定した期間中に、合計10時間以上のボランティアを行なう。 参加にあたってはボランティア計画を作成し、提出する。</p> <p>【事後指導】 1回目（12月7日） グループディスカッション（PC必携） 2回目（12月7日） 体験発表・レポートの提出（PC必携）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前準備学習：ボランティアに関する参考図書やインターネットによって下調べをして、自分なりにノートにまとめる。（学習時間：2時間） ・授業後学習：授業で扱った内容をノートにまとめ、授業内で示した課題に取り組む（学習時間：2時間） 						
授業方法	実習。事前指導、各自のボランティア体験、事後指導（グループディスカッションと体験発表）を行う。この科目はBYOD（パソコン必携）科目である。PC必携の授業については、授業計画を参照のこと。						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内での提出物30%：小テストおよびリアクションペーパー 到達目標（1）の確認 ・レポートと発表70%：体験したボランティアに関するレポートと発表 到達目標（1）（2）（3）の確認 						
履修上の注意	体験するボランティアは各自が探す。探し方については、事前指導で説明する。						
教科書	なし。						
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・前林清和, 中村浩也編著『SDGs時代の社会貢献活動：一人ひとりができることとは』昭和堂 ・早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター編『体験の言語化実践ガイドブック』成文堂 						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	ボランティア論						
担当教員	山口 宰					科目ナンバ-	Z11180
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	ボランティアの理論と実践						
授業の概要	阪神淡路大震災をひとつの契機としてその存在が一般的に認知されるようになったボランティアは、今日、社会の様々な場面において欠かせない存在となった。そこで本講義では、ボランティアの歴史や現状、多様な学問分野からの理論的な分析、そして国内外の様々な現場における先駆者たちの実践の紹介を通じて、ボランティアの本質に迫ること、そして、グループワーク等を通して実際にボランティアを実践するためのスキルを身につけることを目的とする。						
到達目標	1. ボランティアとは何かを理解し、自身の「ボランティア観」を持つことができる。【知識・理解】 2. ボランティアを実践するための理論と方法を身につけることができる。【知識・理解】						
授業計画	1. オリエンテーション：本講義で学ぶ内容、講義の進め方、成績評価の方法について、詳細に説明を行う。 2. 阪神淡路大震災とボランティア：ボランティアへの認識が広まるきっかけとなった阪神淡路大震災と、そのときに行われたボランティア活動について学ぶ。 3. 東日本大震災とボランティア：東日本大震災の実際と、そのときに行われたボランティア活動について学ぶ。 4. 人はなぜボランティアをするのか：様々な学問分野の手法を用いて、人がなぜボランティアをするのかを分析する。 5. 人はなぜ人を助けるのか：人が人を助ける心理的なメカニズムについて、様々な研究を踏まえながら、社会心理学の観点から考察する。 6. インセンティブとボランティア：インセンティブを与えることが、人の行動にどのような影響を与えるか、またボランティアにどのように結び付くのかを考察する。 7. 富山型デイサービスとボランティア：「富山方式」「共生ケア」として有名になった富山型デイサービスを題材に、先駆者が切り開いてきた福祉のあり方を学ぶ。 8. 新型インフルエンザとボランティア：2009年5月に神戸で新型インフルエンザが流行した際の状況と、ボランティア活動の実態について学ぶ。 9. タイガーマスク運動とボランティア：2010年12月より全国的に広がったタイガーマスク運動を題材に、効果的なボランティアのあり方について考察する。 10. 医療事故とボランティア：様々な医療事故を防ぐために行われているボランティア活動について学び、ボランティア活動のあり方を考える。 11. 小児医療とボランティア：病氣と戦う子どもたちと、子どもたちを支える活動について学び、小児医療のあり方について考える。 12. 終末期医療とボランティア：「その人らしい最期」を支えるボランティアの活動を通して、終末期医療のあり方について考える。 13. 国際ボランティア：国際ボランティア活動の実践事例を紹介するとともに、これからの国際ボランティアのあり方を考察する。 14. スウェーデンとボランティア：スウェーデンの歴史や文化、社会や政治、福祉の現状について学び、スウェーデンが福祉先進国となった理由、我が国が学べることについて考察する。 15. まとめ—これからのボランティアのあり方						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う内容について、参考書等で下調べをする（2時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容について、参考書等で復習し、理解を深める（2時間）						
授業方法	講義：授業テーマに関連する問題を出題し、ペアまたはグループによるディスカッションを行う グループワーク：授業テーマに関連するグループワークを実施し、その結果を踏まえた講義を行う 【実務経験のある教員等による授業】 社会福祉法人の経営者・コンサルタントとしての実務経験を持つ担当教員が、現場における事例の紹介や、実践的なディスカッションを交えて、ボランティアの理論と実践を指導する。						
評価基準と評価方法	授業ごとに提出するワークシート（20%）、期末レポート（80%）による ワークシートのコメント・質問等については、次回の授業で紹介・解説を行う						
履修上の注意	授業への積極的な参加を期待する						
教科書	授業中に指示する						

参考書	「恋するようにボランティアを〔優しき挑戦者たち〕」 (大熊由紀子・2008年・ぶどう社) 「明日の福祉に希望の光を―オリンピアのノーマライゼーション」 (山口 宰・2013年・聖公会出版)
-----	---

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	ボランティア論						
担当教員	山口 宰					科目ナンバ-	Z11180
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	ボランティアの理論と実践						
授業の概要	阪神淡路大震災をひとつの契機としてその存在が一般的に認知されるようになったボランティアは、今日、社会の様々な場面において欠かせない存在となった。そこで本講義では、ボランティアの歴史や現状、多様な学問分野からの理論的な分析、そして国内外の様々な現場における先駆者たちの実践の紹介を通じて、ボランティアの本質に迫ること、そして、グループワーク等を通して実際にボランティアを実践するためのスキルを身につけることを目的とする。						
到達目標	1. ボランティアとは何かを理解し、自身の「ボランティア観」を持つことができる。【知識・理解】 2. ボランティアを実践するための理論と方法を身につけることができる。【知識・理解】						
授業計画	1. オリエンテーション：本講義で学ぶ内容、講義の進め方、成績評価の方法について、詳細に説明を行う。 2. 阪神淡路大震災とボランティア：ボランティアへの認識が広まるきっかけとなった阪神淡路大震災と、そのときに行われたボランティア活動について学ぶ。 3. 東日本大震災とボランティア：東日本大震災の実際と、そのときに行われたボランティア活動について学ぶ。 4. 人はなぜボランティアをするのか：様々な学問分野の手法を用いて、人がなぜボランティアをするのかを分析する。 5. 人はなぜ人を助けるのか：人が人を助ける心理的なメカニズムについて、様々な研究を踏まえながら、社会心理学の観点から考察する。 6. インセンティブとボランティア：インセンティブを与えることが、人の行動にどのような影響を与えるか、またボランティアにどのように結び付くのかを考察する。 7. 富山型デイサービスとボランティア：「富山方式」「共生ケア」として有名になった富山型デイサービスを題材に、先駆者が切り開いてきた福祉のあり方を学ぶ。 8. 新型インフルエンザとボランティア：2009年5月に神戸で新型インフルエンザが流行した際の状況と、ボランティア活動の実態について学ぶ。 9. タイガーマスク運動とボランティア：2010年12月より全国的に広がったタイガーマスク運動を題材に、効果的なボランティアのあり方について考察する。 10. 医療事故とボランティア：様々な医療事故を防ぐために行われているボランティア活動について学び、ボランティア活動のあり方を考える。 11. 小児医療とボランティア：病氣と戦う子どもたちと、子どもたちを支える活動について学び、小児医療のあり方について考える。 12. 終末期医療とボランティア：「その人らしい最期」を支えるボランティアの活動を通して、終末期医療のあり方について考える。 13. 国際ボランティア：国際ボランティア活動の実践事例を紹介するとともに、これからの国際ボランティアのあり方を考察する。 14. スウェーデンとボランティア：スウェーデンの歴史や文化、社会や政治、福祉の現状について学び、スウェーデンが福祉先進国となった理由、我が国が学べることについて考察する。 15. まとめ—これからのボランティアのあり方						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う内容について、参考書等で下調べをする（2時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容について、参考書等で復習し、理解を深める（2時間）						
授業方法	講義：授業テーマに関連する問題を出題し、ペアまたはグループによるディスカッションを行う グループワーク：授業テーマに関連するグループワークを実施し、その結果を踏まえた講義を行う 【実務経験のある教員等による授業】 社会福祉法人の経営者・コンサルタントとしての実務経験を持つ担当教員が、現場における事例の紹介や、実践的なディスカッションを交えて、ボランティアの理論と実践を指導する。						
評価基準と評価方法	授業ごとに提出するワークシート（20%）、期末レポート（80%）による ワークシートのコメント・質問等については、次回の授業で紹介・解説を行う						
履修上の注意	授業への積極的な参加を期待する						
教科書	授業中に指示する						

参考書	「恋するようにボランティアを〔優しき挑戦者たち〕」 (大熊由紀子・2008年・ぶどう社) 「明日の福祉に希望の光を―オリンピアのノーマライゼーション」 (山口 宰・2013年・聖公会出版)
-----	---